

六合コミュニティ委員会 設立50周年記念誌

Established in 1972



私たちの住みよい

街づくりのために



私たちの住みよい 街づくりのために

50年のあゆみ



目次

●挨拶（コミュニティ会長）	1
●50年を祝してⅠ（市長・教育委員長）	2
●50年を祝してⅡ（県議）	3
●50年を祝してⅢ（市議）	4
●歴代会長の紹介及び挨拶	5～7
●自治会長の挨拶	8
●基本理念	9
●組織図	10
●委員会事業	11
●活動紹介（本部・専門部・特別部会）	
本部	12
文化部／レクリエーション部	13
体育振興部／健康福祉部	14
生活安全部／交通安全部	15
女性部	16
老人部／消防治安部	17
特別部会（緑道整備部／教育振興部／広報部）	18
●六合音頭	19
●50年のあゆみ	20～25
●六合の今と昔	26～27
●六合の神社仏閣巡り	28～29
●後世に残したい史実・文化財・景観	30
●コミュニティと地域（自治会）のかかわり	31～35
●コミュニティと幼保園・学校のかかわり	36～43
●コミュニティとロクティのかかわり	44
●事業参加ロクティ利用者からの寄稿文	45～52
●コミュニティについて絵で描いてみよう	53～56
●コミュニティについて作文してみよう	57
●本部役員変遷	58
●50周年記念事業委員会名簿	59
●あとがき	60

住みよい街づくりと 絆づくりをめざして



六合コミュニティ委員会

会長 河村 初男

昭和47年に六合コミュニティ委員会が設立され、ここに50周年を迎えることができました。これも六合地区歴代のコミュニティ役員を並びに、委員会の皆さまや地域内の自治会、各種組織の皆様方の長年にわたるご支援、ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

六合コミュニティ創立50周年を迎えて

このたび六合コミュニティは創立50周年を迎えることができました。

これまでさまざまな形で支えてくださった、初代より現在に至る多くの役員の皆様・委員・部員の皆様に感謝申し上げます。

昭和47年自治省のコミュニティモデル組織として、当初、六合地区世帯数1784戸7390人の中で創立し、令和3年4月末現在では6141戸15800余名会員数5600戸以上となっております。

これまでの間、10周年には六合音頭を発表し、小学校の運動会・盆踊りの時に踊られた方や、夏祭りにて公民館の近隣道路で屋台を曳き回した方も多数いらっしゃると思います。また、10周年・20周年には、区切りとして記念誌を発行しております。

このような歴史ある六合コミュニティも創立から50年経過し、会員の皆様の意識も当初からすると多様化していることと思われます。

近年では、定年年齢の引き上げなどで、役員を受けてくれる人がいないとの話を聞きます。

確かに今までは仕事を退職し余裕の時間の中で活動して頂いた役員も多かったですが、これからは勤めをしながらでも運営できる組織として変革していくことも、これからのコミュニティの課題ではないかと考えております。部員を務めて初めて地域の方々とのつながりを持てたことを任期が終わってから良かったと言ってくれる人がほとんどです。各事業の成功も勿論ですが行事の開催に向かって会合を持ち準備をし、そして皆で実行する。それまでのプロセスもまた、コミュニティの本質と思っております。

わたくしも、東日本大震災時には救援物資を福島・宮城県に仕事柄届けに行きました。

東松島町の副町長さんは、「松島は観光で生活させてもらっているから5月の連休までには絶対観光船を復活させます」と目を輝かせてトラックの荷台に乗り、救援物資の荷物を先頭に立って降ろして頂きました。

気仙沼では救援物資を受けてくれた地元の県議会議員さんが、震災後から数日間の停電で冷凍庫が使えず近所の人達と魚をおろして食べ合った実体験を話してくれた中で「コミュニティ組織のある場所の避難所は知り合いも多くストレスも少なく、上手な避難所運営をしています」との言葉がコミュニティの原点とは?と今でも耳に焼き付いています。

コミュニティの原点は欲のない、多くの人との出会い・付き合い・思いやり、の想いをこれからも持ち続けコミュニティ活動を皆さんと共に進めていきましょう。

50周年を祝して(I)



島田市長

染谷 絹代

50周年を祝して

六合コミュニティ委員会の発足50周年を心からお祝い申し上げます。

また、昭和47年のモデルコミュニティの指定から50年、半世紀の長きに亘り、六合地区のコミュニティの発展のためにご尽力された皆様に、深く敬意を表します。

この50年の間、六合東小学校の新設、JR六合駅の開業、岸元島田線や東町御請線の開通などにより、この地域は大きく発展してまいりました。その変化に応えるように、六合地区は市内で唯一人口が増加しております。

しかし、都市化が進むにつれ、コミュニティの役割の多様化、住民同士の関係の希薄化、地域活動の担い手不足などの諸問題も浮き彫りになってきました。

また、現在は、コロナ禍により社会情勢は大きく変わりつつあり、コミュニティを取り巻く環境も厳しく、活動に大きな影響を及ぼしております。

行政需要も増加・多様化する中、住みよい地域をつくるためには、行政の力だけではなく、地域住民同士の繋がりや助け合いが不可欠であります。

その中であっても、活動方法を模索し、長い歴史と伝統を繋げることに努められた六合コミュニティ委員会の皆様には、島田市を代表し、「笑顔あふれる 安心のまち 島田」を実践するコミュニティとして、まちづくりに取り組まれることを期待しております。

結びに、六合コミュニティ委員会の益々のご発展と、皆様方のご活躍とご健勝を記念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



島田市教育委員会 教育長

濱田 和彦

六合コミュニティ委員会

発足50周年記念にむけて

六合コミュニティ委員会発足50周年記念を心からお祝い申し上げます。委員会の皆様は、コミュニティ・センター時代から、地域の活動を積極的に支え、地域をつなぐ役割を果たしてきたことは、高く評価されると考えています。また、六合公民館が受賞した平成28年度文部科学大臣賞にも、六合コミュニティ委員会の活動が大きく貢献していることを忘れることはできません。

公民館活動は、地域との連携が欠かせません。六合コミュニティ委員会の活動は、公民館との共催事業も多い上、文化祭や夏祭りなども大変多くの住民を集め、地域の潤滑油になっています。夏祭りにおける中学生ボランティアの活用も、青少年の地域貢献や健全育成として素晴らしいと、国会議員からも評価されています。このような実績が、公民館の地域連携として評価され、大きな受賞につながったと考えています。

島田市教育委員会は、学校における「夢育・地育」を推進しています。その中で、夢や希望を持ち可能性に挑戦する子供、地域と共に学び地域を愛する子供を育てたいと考えています。これからますます進むグローバル化やデジタル化社会において、子供たちの可能性を伸ばすためには、地域との触れ合いや実体験が大切だと考えているからです。

また、地域とつながった子供の存在は、将来の地域を支える人材としても、貴重だと思います。多世代をつなぐ六合コミュニティ委員会の活動は、次世代を育成するという面からも評価されるものだと考えております。今後も、委員会の皆様のお力で若者をはじめ多世代をつなぐ活動にお力を発揮していただけたらと思っています。

結びに、六合コミュニティ委員会のますますのご活躍と、六合地区の生涯学習の充実、地域の皆様の笑顔を願って、私のお祝いのあいさつといたします。

50周年を祝して(Ⅱ)



県議会議員

河原崎 聖

50周年を祝して

六合コミュニティ委員会発足50周年を心からお祝い申し上げます。

また、これまで50年の長きにわたり、輝かしい歴史を築いてこられました歴代の役員をはじめ、会員の皆様の御努力に心から敬意を表します。

さて、現在、大きく変化する国際社会や国内の諸情勢のもと、本県を取り巻く社会環境も、不透明かつ厳しいものがあります。

また、このたびの新型コロナウイルス感染拡大は、市民生活に大きな影響を及ぼし、さらに、皆様方のコミュニティ活動が制限され、思うような活動ができないことに忸怩たる思いをされていることとお察し申し上げます。

こうした中、私としては、新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限努めるとともに、様々な支援策とアフターコロナを見据えた諸政策を打ち出し、県民一人ひとりが日々安心して暮らしていけるよう、静岡県に対して働きかけをしていく所存であります。

六合コミュニティ委員会が今まで培ってこられた歴史と伝統と豊かな可能性を最大限に生かし、今後も六合地区が市民本位のまちづくりに重要な役割を担い、さらに御活躍されることを心からお祈り申し上げますとともに、この発足50年記念誌に記された輝かしい歴史と伝統に、新たな充実発展の歴史を加えられますことを心から御祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



県議会議員

櫻井 勝郎

50周年を祝して、

豊かで活力に満ちた地域の創造へ

六合コミュニティ委員会並びに関係者の皆様方、この度は、六合コミュニティ委員会発足50周年、誠にありがとうございます。

半世紀に及ぶ活動を積み重ねてこられた関係者の皆様方のご労苦とご尽力に対しまして、深く敬意を表す次第であります。

さて、本委員会は、昭和47年、自治省によるモデルコミュニティ地区の指定を受けて発足されました。以来、六合地区においては、急速な人口の増加を背景に、六合東小学校の新設や六合駅の開業など、都市基盤の整備が進められてまいりました。

こうした中、本委員会では、「私たちの住みよい街づくりのために」をテーマに掲げ、環境整備や交通安全などの身近な地域活動を実践され、地域づくりの一翼を担われております。その地道ながらも地域に根ざした活動は、県内コミュニティ活動のロールモデルとして高く評価されております。

現在の社会は、少子高齢化の急速な進行や昨年来のコロナ禍など、大きな時代の変化の只中にあります。しかしながら、時代がいかに変わろうとも、コミュニティ活動に象徴される「地域愛と住民の絆」は普遍的な価値であり、本委員会の存在は、本市にとって財産であり誇りとも言えましょう。

結びに、本委員会におかれましては、この50周年の節目を住みよい街づくりへの大きなステップにされるとともに、豊かで活力に満ちた地域づくりの牽引役として、今後益々発展されることをご期待申し上げます、メッセージといたします。

50周年を祝して(Ⅲ)

市議会議員

平松 吉祝

50年を祝して

六合コミュニティ委員会50周年おめでとうございます。歴代の会長、役員の方々のご尽力に敬意を表するとともに感謝申し上げます。

自治省のモデル地区の指定を受け昭和47年に「六合コミュニティ委員会」は発足しました。六合村が島田市と合併し、民主化がいくら進展しても、地域の良き意味での連帯性は存続させなければならない、としてコミュニティ政策を実施したのは当時の市長、森昌也氏でした。当時は旧来の農村時代からの住民と合併後の都市化で新住民となった人達がちょうど半々ですべてのことに新旧の対立があり混乱が起っていました。六合コミュニティは役員に市議会議員や町内会長を加えない方策をとり、「コミュニティとは『開いた共同体』である。」という森氏の言葉がそのまま実践されていきました。また、その当時にアメリカのリッチモンド市と姉妹都市提携を結び、コミュニティについて日米合同の研究会議を開いていますが、時を同じくして50周年をむかえます。日本のコミュニティ活動の先駆けとなった「六合コミュニティ委員会」が50周年をむかえたことは、地域の大きな誇りであり、今後にも期待しています。

市議会議員

桜井 洋子

六合コミュニティ委員会 50周年を祝して

六合コミュニティ委員会50周年おめでとうございます。六合地域の住みよいまちづくりの為に、50年の歴史を積み重ねてきた活動に、敬意を表します。私がこの地に住み始めて44年が経ちますが、周りに田んぼの多かった地域が、宅地化が進み、道路整備、学校や保育園の増設、公民館の建て替えなど、今では市内最大の人口を抱える六合地区となりました。その発展には目を見張るものがあります。一方で、都市化がすすめば、住民同士のつながりが薄れていきやすいものですが、どっこい、人々の地域に対する思いはしっかり受け継がれています。その中心となって活動してきたのが六合コミュニティ委員会だと思います。子どもたちから高齢者の皆さんが安心して住み続けられるまちにするために、私も六合コミュニティ宣言「みんなで豊かな心を育てましょう・みんなで心のつながりを持ちましょう・みんなで快適な環境をつくりましょう」を心に刻み、議員活動を続けていきます。

前市議会議員

曾根 嘉明

50年の思い出

昭和45年頃、六合地区がコミュニティ地域に指定されると聞きました。現在の島田掛川信用金庫六合支店のところにある旧役場の和室に、各地区の代表の皆様が集まり、コミュニティとは何か、どのような委員会組織を作り運営を行うか、市当局の指導の下規約等ができ、昭和47年に発足したことを思い出します。

引き続いて、新しくできた部会の一つの、教育文化部会に所属して、先輩の皆様の指導の下で活躍させていただきました。中でも当時は六合地区には、青年団活動がないとのことで、私と阿知ヶ谷の杉本勝義君と二人で20歳前後の皆様のお宅を訪問して、アンケート調査を行ったことなど懐かしい思い出です。

その後若い方々の有志の皆様が努力をしていただき、青年部会が発足し活動されたことに敬意を表します。六合コミュニティ委員会は今市が目指す、市民協働のまちづくりの先駆となる組織だと思います。更なる50年に向け御尽力をお願いいたします。

前市議会議員

河村 晴夫

六合コミュニティとの関わり

六合コミュニティ会創立50周年おめでとうございます。この間に数多くの人たちにご尽力を頂きありがとうございます。

昭和49年、私が高校を卒業し社会人になった年でした。その当時、農協の有線放送で六合公民館で若者の募集のお知らせがあり、私を含めて5人の賛同者が集まりました。その翌年から六合青年学級として発足し、六合コミュニティ組織内に『青年部』としても参加しました。

公民館内に青年部の部屋も、活動の拠点として貸して頂き、毎日のように集まり、六合の為に何かできないかと試行錯誤していたころを思い出します。夏の盆踊り大会・地区名所案内板の作成・コミュニティ活動の応援と、地域の皆さんと交流をしてきました。しかしながら、昭和50年代後半に青年組織も維持できなくなり解散してしまいました。

現在も、青年活動で生まれた行事が残っています。東光寺で行われている『ほたるの里コンサート』です。静岡県青年団体協議会で実施していた『青年の船』に参加した若者が、地域との交流を何かできないかと企画して始めた事業でしたが、現在も、六合コミュニティ会の事業として引き継がれています。

50年の歴史は一言では言い表せませんが、役員の皆様はご苦労の方が多かったかと思えます。過去の半世紀より、今後の継続の方が難しい時代となっていますが、コミュニティ精神を引き継いで益々のご発展をお祈りいたします。



歴代会長紹介



初代・第2代会長	河村 泰太	第3代会長	山本 真一
第4代会長	小長谷 義郎	第5代会長	鈴木 正一
第6代会長	堤坂 泰次	第7代会長	田村 敏雄
第8代会長	斎藤 昇一	第9代会長	森下 繁
第10代会長	櫻井 曜	第11代会長	曾根 憲太郎
第12代会長	塚本 正	第13代会長	杉本 操
第14代会長	安原 精二郎	第15代会長	池田 國男
第16代会長	大畑 道雄	第17代会長	内山 一郎
第18代会長	河村 徹	第19代会長	飯塚 亘
第20代会長	永田 宗雄	第21代会長	櫻井 穩
第22代会長	曾根 龍夫	第23代会長	鈴木 照男
第24代会長	前川 富士男	第25代会長	鈴木 政隆
第26代会長	大久保 陽一	第27代会長	河村 初男
第28代会長	齋藤 実	第29代会長	河村 初男



歴代会長挨拶(I)



第16代会長

大畑 道雄

六合コミュニティ委員会 発足50周年によせて

諸先輩方の後を引き継ぎ、私が会長を受けた年は、ちょうど発足30周年の年で、記念式典と津軽三味線演奏会を無事開催できました。

皆様のご協力に感謝申し上げます。

当初は、何をするかと思ひ悩む日々でしたが、先輩方より「みんなが楽しめることを！」と助言をいただき演奏会を計画しました。

開催準備では、「体力には自信があるから力仕事は任せてください」と黙々と動いてくれた方がいて、その姿はとても印象的で、心打たれ励まされました。一人ひとり持ち味を出し、協力することこそ、コミュニティの力だと確信しました。

今でも夏祭り文化祭等、和気あいあいとした雰囲気に触れうれしく思います。

これからも六合地区発展の為、皆が協力し知恵を出し合い、コミュニティ活動が60周年、70周年と進んでほしいと願っております。



第18代会長

河村 徹

ロクティ

21世紀に入って間もなく六合公民館・コミュニティセンター（コミセン）は耐震性の問題から建直しに直面した。地区代表者及びコミュニティ役員が市と協議を重ねたが、建設費などを理由に規模を現状より縮小する方向性が打ち出された。

そのころ初倉地区でも公民館が建設されたが、静岡空港がらみで財政的にも有利であったようだ。市街地中心部の空洞化や六合地区の人口増が目立っていた時勢でもあり、ここで縮小を認めて建物ができてしまってからでは少なくとも半世紀の間は地元住民に悔恨を残すことになるという思いから、縮小するくらいなら建設中止をと主張した。市としては「建ててやるからありがたく思え」の姿勢も見え隠れしていた。公民館跡地も宅地化するとの声もあったが、我々は駐車場や災害避難地として残すことを強く要望した。

そして今ここにロクティがある。



第19代会長

飯塚 亘

50周年記念に寄せて

六合コミュニティ委員会発足50周年誠におめでとうございます。

発足以来今日までの間、歴代尽くされた役員の皆様方を初め、それらにご協力とご支援を賜りました地域の皆様方に心から感謝申し上げます。思い起こしてみると私は役員を引き受けた時でした。

昭和61年4月 六合駅開業と共に駅周辺に青少年等のたむろと環境浄化の為に県から依頼があり、コミュニティ委員会として環境浄化部会が主となり、63年から夏の間、六合駅周辺青少年夜間補導パトロールを実施し、地域の健全と駅利用者の環境整備に努力されており、これら活動により明るく住みよい街となっております。この活動は地味であり、後世に引き継いでいただきたいとお願いいたします。



第20代会長

永田 宗雄

コミュニティ活動で人との出会い

六合コミュニティ発足50周年を心よりお祝い申し上げます。私は地域住民による地域住民主体のコミュニティ活動に2004年から4年間関わり、その体験は貴重な財産となりました。当時、小学生への声掛け事案の発生により、防犯パトロールのスタートに当たり、その策定に携わった事は、今でも思い出に残るものとなりました。コミュニティ活動では各種のイベントを通して多くの方々との出会いが生じ、人との距離感を短縮する機会が出来ます。その結果、私は人との絆を得ることが出来ました。特に、今は亡き六合公民館勤務の森下文生さんには感謝の言葉しか有りません。森下さんは、直接にはコミュニティ活動とは関係ありませんが、常に裏方で苦勞を惜しまず活動を支援して頂きました。その姿勢は教訓と受け止めました。存命中はプライベートでも親しい関係を築かせて頂きました。又、本部役員をご一緒した松沢活人さんには蕎麦打ちを教わり、その後、年越し用の蕎麦打ちは年中行事となりました。孫や知人から『美味しかった』の声を聞くと私のモチベーションを保つ要因となっています。コミュニティ活動から離れて時期も経ちましたが、今でも当時の事が走馬灯のように脳裏を駆け巡ります。最後に50年を契機に時代の変化に対応するコミュニティ活動の船出となるようご期待申し上げます。





歴代会長挨拶(Ⅱ)



第22代会長

曾根 龍夫

六合コミュニティ 「組織の大切さ」に思う

私は、平成20年、21年の2年間六合コミュニティの本部役員をやらせていただいた。そのきっかけは、東町自治会長をやらせていただいて、次の自治会長さんから「六合コミュニティは自治会を束ねる役もしているから自治会長を経験したあなたが役員になって六合をまとめる役をやって欲しい」とのことで役員になった。そして、その後も東町から六合コミュニティの本部役員は、自治会経験者が本部役員になる人が多い。それは、大変良かったと思っている。

今、私は、東町老人会長をやらせていただき、六合老人部の仕事もさせてもらっているが、六合にコミュニティの組織があってよかったと思っている。六合にこのような組織がなければ六合全体の老人部の活動はうまく行かないのではないかと考えている。そんなことを考えると組織があることの大切さを痛感している。これからもこの組織を大切にしてほしいものだと願っています。



第25代会長

鈴木 政隆

コミの思いで

平成22年にコミの書記を受けてから11年が経ちました。地域の活動に関与したことのない私が、突然、見直し等審議委員に推薦され、最初の会議の席上で、ある自治会長から、「現在のコミは魅力が無い。コミ本部役員のレベルが低い。」と言われ衝撃を受けました。これまでの地域に関する不勉強を反省し、妻(旧公民館に勤務)から、コミの置かれている状況を教えられ、コミが地域の大切な社会教育の場であること知らされました。また、地域住民・コミと社会教育課・公民館職員との軋轢は最悪で、コピーはしてもらえず、トイレもロビーも職員の許可が無いと使用できませんでした。これらを改善するために金谷の教育委員会に月に何度も通いました。六合地区の署名を集め市長に要望書を提出し、団体交渉をしたことを思い出します。今の市長や教育長の六合コミへの対応は隔世の感があります。自治会長は、優れた人材を本部役員、専門部長に責任を持って推薦して欲しい。令和三年、50周年記念事業実行委員会を纏め、記念式典が盛大に挙行されることを望みながら10年余に経るコミとの関りを終わります。



第26代会長

大久保 陽一

これからのコミュニティの 目指す方向

六合を取り巻く環境は大きく変容してきており、50周年を機に、コミュニティあり方を見直していくことが求められています。その1つは事業内容、もう1つは、5つの町内コミュニティ委員会との連携及び役割分担であると考えます。

その一環として、令和3年度総会において、健康福祉部と体育振興部が廃止されることとなりました。これは、敬老会や、一人暮らしの高齢者の見守りはそれぞれの身近な地区社協に、新スポーツの普及や、ウォーキングなどの企画は各町内のコミュニティにシフトしていくという考えに基づいています。

六合コミュニティ委員会は、快適な環境づくり、教育の向上など六合地区全体に関わる事業を活動の中心とし、個々の事業については、住民により身近な町内コミュニティや地区社協に委ねることです。

六合は子供が増加している市内唯一の地区です。この地区の特性をとらえ子供を暖かく見守り育てることに特化したコミュニティ活動の展開なども今後の事業見直しのヒントとなるのではないのでしょうか。



第28代会長

齋藤 実

50周年を祝して

六合コミュニティが50周年を迎えられ心からお喜び申し上げます。この50年の間には多くの方々の努力、協力があって今日がある事と思います。私は直近では5年間コミュニティの活動にタッチし生活安全部、その後に副会長、会長を勤めさせていただきました。

教育振興の面では学校関係者と一緒に、コミュニティが子どもたちの為に何が出来るのかを真剣に議論して来ました。小学校児童の登下校において、交通事故や不審者に遭わないために2校の安全マップを完成させました。市内で初めての試みだと行政からも高い評価をいただきました。製作の苦労はありましたがこの活動に一番、やりがいを感じたところであります。

文化講演会の企画では、外部講師を招き「元気で幸せになるための秘訣とは」をテーマで行ないました。人にとって一番大切な事は辛いこと悲しい事があった時、間違った方向に行ってはだめ!人の心や性格は変える事は出来ない。自分が変わるしかないとお話はとても感銘を受けました。コミュニティの基本理念にある「みんなで心のつながりを持ちましょう!」を大切に、相手の気持ちを尊重、理解し合える風土を築かれる事をいつまでも願っております。





道悦島自治会

会長 **山本 彰**

50周年を祝して

道悦島自治会は、約1,800世帯4,400人で市の中でも2番目に大きな所帯です。駅も近くにあり、小・中学校も自治会地域内にあり、環境に恵まれておりますが高齢化が他地区同様に進んでいます。私たちの道悦島自治会では、30年以内に70%の確立で発生する南海トラフ大地震や、近頃の温暖化の影響で大雨が続く時などは、近くの河川から水が溢れる心配もありこのようなことから、従来から自主防災活動には特に力を入れて取り組んでおります。

1、安心・安全のための、命を守るための自主防災活動の推進。

2、地域の美化活動、及び生活環境の向上を図るため行政と連携し推進。

3、地域住民や、子どもたちを交通事故から守る交通安全活動の推進。

4、福祉・保健・体育の取り組みで、コミュニケーションの場づくりを推進。以上を主に委員会組織として実施しています。

ひと昔前までは、「向こう3軒両隣」の親密さもあり、お互い隠し事などなく助け合ったりして来ましたが、昨今は個人情報の壁に阻まれ、おせっかい的な干渉が出来なくなり、実際に大地震が起きた時など助ける事が出来るのかが大きな課題です。自治会を推進するべきリーダーも高齢化し、役のなり手も無いのも実情です。とは言っても道悦島自治会はこれからも、地域の中心となって取り組んで参ります。

阿知ヶ谷・東光寺自治会

会長 **曾根 鋭治**

六合コミュニティ委員会と私

私と六合コミュニティとの出会いは、平成23年専門部文化部員として参加したのが最初であった。

そして24年、25年は本部役員として、その後も町内会、自治会を介して令和2年度まで10年間六合コミュニティに携わってきた。

その間、夏まつり、マス釣り大会等楽しいことも多かったが、文化部を担当したときは当時掲示板、机などが少なく、調達に若干苦勞した覚えがあるが、多くの人の助けを借りて無事できた時は嬉しかった。そんな10年間で私の一番の宝物は地域のために一生懸命頑張っていた人達に出会えたことである。

皆さん立派な方で大変勉強になりました。今でもほぼ毎月のようにお会いしますが、ただ場所がいけません。病院です。「定例役員会がここでできるなあ」と冗談がとびだすことも。そして別れる時の言葉は決まって「お大事に」です。

まだまだみんな活躍してもらわないと困るので、元気で長生きしろよ。

岸町自治会

会長 **伊藤 裕次**

コミュニティってなに？

「コミュニティってなに？」

「人が集まって、色々な事をやるところ。」

「コミュニティって必要な？」

「必要だね。」

「無いところもあるよ。本当に必要な？」

「それでも必要。あれば何かの時、必ず役に立つ。」

と、ある人と飲みながらの会話でした。

六合コミュニティというと、この人との会話を思い出します。今は、この人とは会うことは出来ません。あの当時は、コミュニティの事は全く知りませんでした。

今なら、岸町コミュニティや自治会の業務を通じて、六合コミュニティの事がある程度知り、少しは分かるようになったと思います。

ですので、この人に会えたら、もう一度聞いてみたいのです。

「コミュニティって何？」

東町自治会

会長 **園田 穰**

50周年を祝して

1971年、昭和46年と言えば、沖縄返還調印式(自民党が単独法案採決)、ニクソンショック(金とドルの交換停止)、円変動相場制移行(360円という固定相場の崩壊日本はバブル経済に)、6400万人もの入場者があった大阪万博が終わった翌年、千里ニュータウンの完成(もう二世世代の交代がすんで新たな若い人達も住みついている先進的なニュータウンに変貌)、20年続いた高度成長期の終焉の2年前(まだ経済成長率10%)、等々、歴史が大きく動いた時代だと今回判りました。以来50年に亘り、コミュニティ活動を続けて来られた先輩諸氏に敬意を表します。地域では防災意識が変わってきて地震だけでなく、台風、集中豪雨、火山噴火まで想定しなければならなくなりました。個人的な備えは元より、地域の人との繋がりを大事にする六合コミュニティの存在意義は大です。さらなる発展を祈念いたします。

六合コミュニティの基本理念



みんなで豊かな
心を育てましょう

き
ず
な



みんなで心の
つながりを持ちましょう

みんなで快適な
環境をつくりましょう



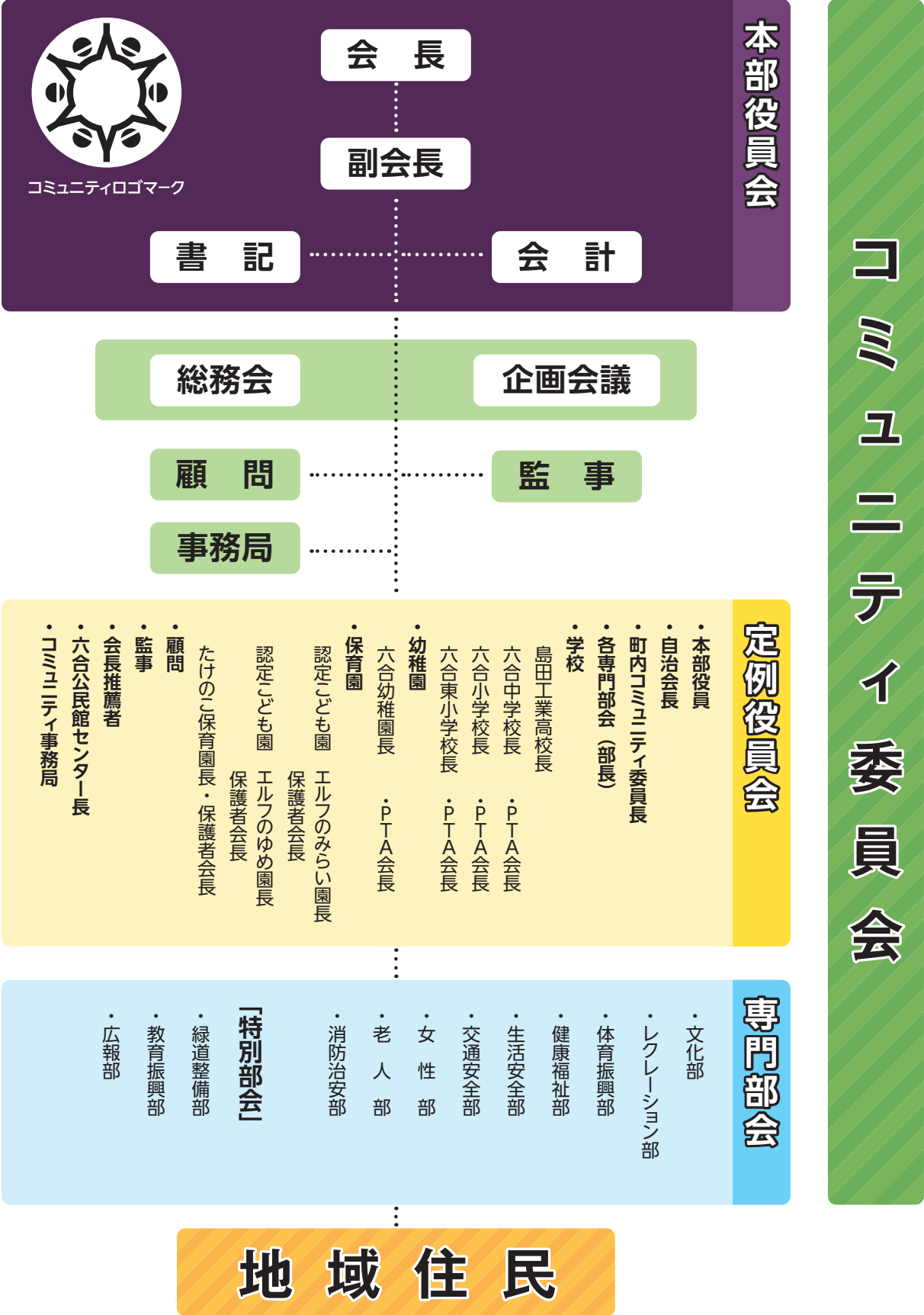
六合公民館（ロクティ）



JR六合駅

私たちの住み良い街づくりのために

六合コミュニティ委員会組織図



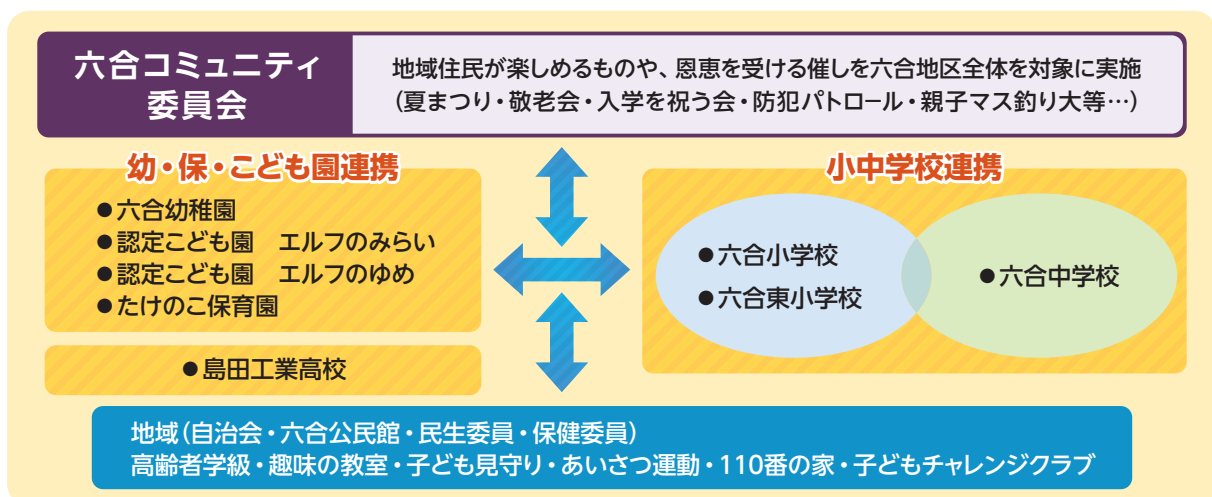
コミュニティ委員会

六合コミュニティ委員会事業

◆組織の役割と事業

	事業名	主な内容
本部	総 会	年度初め開催。事業報告、決算報告、委員会役員等の審議をおこない認定・承認
	総 務 会	本部役員会からの付託事項、総会への上程事項、規約改定・規程、企画会議の答申事項等審議
	定 例 役 員 会	議事録報告、提案事項審議、本部・専門部会等、学校・幼保育園・自治会・地区コミ等の実施と予定報告
	本 部 役 員 会	総会・定例役員会・総務会等に上程する事案審議、各会議・部会等からの懸案事項等の審議
	六 合 夏 まつり	全部員参加し、地域住民が楽しめる企画の出店や、学校・園児・一般の催しをステージで行う
	福 祉 等 助 成 活 動	学校・幼保育園及び地区福祉協議会等への助成事業
	緑 道 除 草 作 業	緑道整備部の計画に基づきコミュニティ緑道の除草作業を年4回実施
	文 化 講 演 会	地域住民への娯乐的催しや講演会の開催
専門部会	文 化 部	ホテルの里コンサート、文化祭の開催
	レクレーション部	親子マス釣り大会、AED講習会開催
	体 育 振 興 部	ウォーキング大会、スポーツ講習会の開催
	健 康 福 祉 部	戦没者追悼式、一人暮らし・寝たきり高齢者訪問の実施
	生 活 安 全 部	防犯パトロール(青パト)、夏の防犯パトロール、防犯まちづくり協力会の開催進行
	交 通 安 全 部	各催事における交通整理等
	女 性 部	タオル抛出運動(学校・福祉団体への寄贈)、敬老会・入学を祝う会の開催
	老 人 部	いきいきクラブ大会、各種レクレーションスポーツ大会の開催
	消 防 治 安 部	冬季特別警戒、投光器の点検、夏まつりのテント作業、文化祭の協力
	特別部会	緑 道 整 備 部
教 育 振 興 部		子ども・生徒・園児の育成に係る各学校、園の実務者等のコミュニケーション活動
広 報 部		広報誌「あけぼの」及びカレンダーの編集発行
	企 画 会 議	会長が諮問した事項等について長期的な視野に立ち、将来について審議
	五十周年記念事業実行委員会	五十周年記念事業の実施に向けた計画・進捗状況等の会合

◆コミュニティと学校の相関関係



本 部

本部(全体)の活動

餅まきは大勢の方でにぎわいます▶

夏まつり



▲高齢者学級が舞台に登り、子どもも輪になり興じます



▼中学のプラスバンド部員が夏まつりを盛り上げます

子どもらはゲームに夢中です▶



毎年の催しの中で地域の皆さんと触れ合える一番の行事です。専門部ごとに担当を決め、部員の皆さんが総出で出店やイベントに活躍いたします。

コミュニティ総会



▲来賓の島田市長のご挨拶



▲功労者への表彰

4月に過去1年間の活動結果と決算を報告し、本年度の活動計画の承認をいただきます。

文化講演会

地域の方々大人から子どもまでが楽しめる催しやコミュニティの中で生きていくための大切さなどのお話の機会を得てきました。



▲H30年 かし座による影絵「赤ずきん」の上映



▲H31年 三遊亭遊喜師匠による落語寄席

イルミネーション点灯



公民館入口に12月から1月にかけて光の演出で来館者に楽しんでもらえるように、イルミネーションを点灯します。

除草作業



栃山川の土手と、緑道の草刈を年4回実施しています。

専門部会

文化部



文化祭 は地域の方の趣味や特技を皆さんに披露できる唯一の場所で、毎年楽しみにしている方も大勢います。



ホテルの里コンサート は、東光寺で音楽コンサートをおこない辻住職によるホテルのお話をいただきました。東光寺谷川で川面に飛び交うホテルの鑑賞をします。



夏まつり では、三角グジコーナーを担当しました。

レクリエーション部



親子マス釣り大会 は、釣りが好きな方には待望のイベントです。時間が経ったらタモすくいが始まります。



AED講習会 は、室内外での行事の際、救急救命のやり方をマスターする事で人の命を救うことができます。全部員を対象に講習をおこなっています。



夏まつり では、綿菓子コーナーとアトラクションを担当しました。

専門部会

体育振興部



新スポーツ講習会 は、どこへ飛ぶかわからない「ワンバウンドフラバール」のスポーツをおこないました。



▲大井川河川敷を歩いて蓬萊橋に向かっていきます。

秋にリパティ(大井川河川敷)から蓬萊橋を渡り初倉に行くコースを**ウォーキング**コースとしています。



夏まつり では、かき氷と金魚すくいのコーナーを担当しました。

健康福祉部



戦没者追悼式 では、西南の役から第二次世界大戦までに戦死された方の追悼式を開催しています。二度と戦争が無いことを誓いました。



一人暮らし・寝たきり老人訪問 では、高齢者宅を訪問しお話をうかがう活動をしています。



家庭から出された物品を、**夏まつりのバザー**で販売しました。特に家庭必需品の洗剤や油などは大人気で多くの人でにぎわいました。



専門部会

生活安全部



年間を通じ、六合地区内の夜、人が集まりそうな場所の**防犯パトロール**を実施しています。



青パト講習会 (防犯まちづくり協力会)は、青パトに乗ってパトロールする方の交通安全の心得のお話を聞き、講習終了証をお渡しします。

防犯パトロールルート(毎週土曜日夜)
夏の防犯パトロール(夏休みの期間)
ロクティ → 道悦島 → 阿知ヶ谷・東光寺 → 岸町 → 東町 → ロクティ
駅周辺・神社・学校・スポーツ広場・公園等を約1時間かけて巡回します。



50周年記念事業の経費に充てるために**古紙回収**を実施しました。



夏まつりでは、ポップコーンと子どもクジコーナーを担当しました。

交通安全部



六合地区内自治会・島田警察署・安全協会六合分会の協賛で、**交通・防犯講習会**をおこないました。



▲ロクティ西側の横断歩道での交通整理



▲来場者の自転車も整然と並べます。

夏まつり・ホテルの里コンサート・敬老会・子どもの入学を祝う会・文化祭など、**各種事業の交通整理**を行ないました。

専門部会

女性部



敬老会 は毎年、80歳以上の方を招待して長寿をお祝いしています。来賓の方をお招きし、子どもやグループ団体の歌やダンスなどが披露されました。



夏まつり では、焼きそばやフランクフルト、フライドポテトコーナーを担当しました。



毎年、新1年生になる児童を対象に、**入学を祝う会**を開催しています。六合小及び東小学校の校長先生から祝辞をいただき子どもたちには記念品が贈られました。



専門部会

老人部

いきいきクラブ大会

は、六合地区のシニアがグラウンドゴルフや各種スポーツやゲームを通じて友好を深めています。年1度の集大成の意味で、大会をおこないました。尚、来賓を招待し講演を聴いたり自らの芸を披露する場でもあります。



その他、歳末助け合い共同募金に協力しました。



夏まつり

では、清涼飲料水のコーナーを担当しました。



消防治安部



▲消防車への乗車体験コーナー



▼ご満悦の子ども

◀市から貸与を受けていた投光器車両



消防治安部では令和元年まで、

投光器の点検

を実施していただきました。文化祭では子どもたちに消防車への乗車体験をおこないました。夏まつりのテント張りや除草作業では

力仕事を中心

に活躍していただきました。



▲草刈には本領発揮しました



▲労力のいるテント張り作業

特別部会

緑道整備部

緑道整備部は栃山川沿いのコミュニティ道と言える、緑道が四季折々の美しい草花の景観を毎年楽しめるよう

除草・清掃作業 を関係の皆さんと一緒に年4回実施しています。



▲安全な作業の説明を聞き、其々の作業に着手



▲草刈機による除草作業

教育振興部

学校関係(園長、小中学校教務主任、PTA)の皆さまと年4回の部会を開催し、園や学校が抱えている課題や、園・学校を取り巻く諸問題とどのようにコミュニティは関われるか、何をすべきかなど部会を通じ意見交換や話し合いをおこなっています。



▲六合小学校区



▲六合東小学校区

H29年3月 島田市の小校学区内で最初の「交通安全マップ」を製作

広報部



広報部は六合コミュニティ行事を主に取材を行い、それらを多くの方々に興味を持って参加して頂けるように紹介する広報誌「あけぼの」の発行と催し月日を記した

「六合コミュニティカレンダー」 を作成しました。



▲部員らは慣れない取材(写真撮影や記事原稿作成)資料を基に「あけぼの」の編集作業



▲年3号の「あけぼの」を発行



▲毎年、コミュニティ行事や地域行事を記したカレンダーを発行しました。

地域と
共に

六合音頭

発足10周年
記念作成

六合音頭 作詞 鈴木 幾男
作曲 北村 秀男

はばんで
ハ 7 ニ さく- り - さく-
こ 3 おうけへ- おい- で はば-
も - はばえ- む つつ- け- け-
か おる しん- ねに- ひえの ね さえて さる- が
まう ま- ろ ひろ こう じ -
サッ サ おどろよ るくごう おんじ みん- ば
わに- ばれ おま- むうし おどろう し



ハアー
さくら咲く頃御請へおいて
花もほほえむ 堤道(サテ)
香る新茶に 笛の音呼えて
猿が舞う舞う 東光寺(ソレ)
※繰り返し
サッサ踊ろよ 六合音頭
みんな輪になれ お手拍子お手拍子

ハアー
祭り太鼓が 道悦島の
森に聞えて 秋が来る(サテ)
雉の鳴く声 谷間を渡りや
もみじ色づく 阿知ヶ谷に(ソレ)
ハアー
いちごハウスを 透かして見れば
増える家並 陽に映える(サテ)
嫁も姑も 仲良く踊りや
交す笑顔が 明日を呼ぶ(ソレ)

ハアー
むかしたずねて 細島行けば
仰ぐ義人の 五郎さん(サテ)
しのぶ空には まんまる月が
岸の大日 照らし出す(ソレ)



振付(踊り方)

- 振付者 鼓柳 美登里 (鼓柳流家元)
- 表現者 鼓柳 慶美



●輪おどりで。楽しく踊って下さい。
進行方向は右まわり(反時計)です。
前奏四拍間
進行方向に向いて立ち
待つ

- 一ツの二ツ
胸の前でチョチョンが
チョンと手拍子をうつ
三ツ
両手下から末広に開く
右足を出します
四ツ
左足を出して両手末広
に開きおろす
五ツの六ツ
「三ツの四ツ」をくり
かえす
七ツ
円心に向き右足を右(円
周上)に出し右手伸し
左手右手甲にのせる
八ツ
左足出して左手左下に
ながす
九ツ十
右にまわり円外に向い
て「七ツの八ツ」の反
対動作を行う
十
進行方向に右足出し右
手前に伏せて伸し左手
二の腕にそえる
十一
左足左手前に出し右手
左手二の腕にそえる



- 十二
右足右手前に出し左手
右二の腕にそえて左足
あげる
十三
あがつている左足を左
斜前に出し右足爪先を
左足の所でスタンプ両
手頭上で丸を作る
十四
「十三」の反対動作を
円外斜前に行う
十五、十六、十七、十
八
「十一、十二、十三、
十四」の反対動作を行
う
十九
右足前に踵をつき両手
手首を立てて左手前に
伸し右手横に伸す
二十、二十一、二十二
「十九」の動作を左右
左と手をかえて行い右
に四歩でまわり進行方
向に向く
二十三
右足左足前に入れこみ
左足浮かせてのめる両
手左右に開く
二十四
右足左足に付けて胸の
前で手拍子チョン
二十五、二十六
「二十三、二十四」の
反対動作を行い元に戻
ります



地域と共に

六合コミュニティ

50年のあゆみ

六合コミュニティ委員会発足

6月28日 自治省よりモデルコミュニティ地区の指定を受ける
8月21日 六合コミュニティ委員会発足



初代 河村委員長

六合第一保育園開園



保育園全景

4月1日 六合第一保育園開園

昭和50年～53年
文化祭はアナウンサーの講演や師匠による講演が盛んにおこなわれる!

- ・S50年 NHKアナウンサー 酒井 広 氏
- ・S51年 NHKアナウンサー 山川 静夫 氏
- ・S52年 古典落語 古今亭 菊 師匠
- ・S53年 NHKアナウンサー 大塚 利兵衛 氏
- ・S54年 TBSアナウンサー 鈴木 治彦 氏
- ・S55年 漫画家 やなせ たかし 氏

〈講演者〉



酒井広氏



山川静夫氏



講演風景(当時の講演ではありません)

昭和47年度

昭和51年度

1972

1973

1974

1975

1976

1977

1978

1979

1980

昭和49年度

コミュニティセンター落成

3月末 コミュニティセンター完成
5月20日 コミュニティセンター落成式・記念行事開催



コミュニティセンター全景
(コミセンと親しまれた)



落成式風景

昭和50年度

島田市立六合幼稚園に改組

昭和29年に開園し島田市立六合幼稚園となり、六合地区の幼児教育の基礎ができた

昭和54年度

六合第二保育園開園



六合第二保育園開園

昭和52年度



12月20日 東光寺猿舞が静岡県無形文化財に登録

昔の猿舞のようす

1972

- ・札幌冬季オリンピック・日本列島改造論
- ・日中国交回復、初心者マーク義務付け
- ・小野田寛郎さんルパン島から帰国
- ・巨人、長嶋茂雄引退

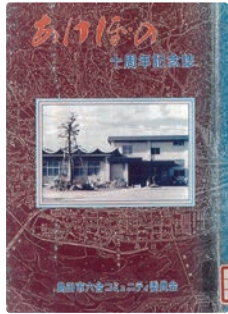
1975

- ・ロッキード事件
- ・モントリオールオリンピック開催

1980

- ・気象衛星ひまわり打ち上げ
- ・カラオケ、TVブーム到来
- ・宇宙戦艦ヤマト映画化
- ・インベーダーゲームブーム
- ・第2次石油ショック

**六合コミュニティ
10周年記念**



10周年記念誌

11月8日 コミュニティ10周年
記念式典開催

昭和56年度



**六合東小学校
開校**



新校舎風景

4月5日 六合東小学校落成
開校

昭和60年度



1981

1982

1983

1984

1985

昭和57年度

6月10日 10周年を記念し、「六合音頭」を
レコード化する
青年部会、レクリエーション部会が地区に踊り
の巡回指導



当時のレコード盤(歌: 葵ひろこ)



昭和58年度

**六合中学校
改築**

7月31日 六合中学校校舎完成



▲台風18号の爪跡

9月12日 台風18号による豪雨で大きな被害
(床上浸水754戸、床下浸水144戸、全壊1戸)

昭和60年度

**たけのこ保育園
岸に移転 開園**

4月 島田市高砂町から移転



校舎全景

1985

・神戸ポートピア開催
・校内暴力史上最高に

・東北・上越新幹線開通
・カード式公衆電話が設置される

・大韓航空機撃墜事件
・TVおしんブーム

・日航ジャンボ機墜落
(世界最大の航空機事故)
・電々公社と日本専売公社が民営化



地域と共に

六合コミュニティ

50年のあゆみ

六合駅開業

- S59年 六合駅設置陳情書を市に提出
- S60年 コミュニティ特別部に「新駅 設置促進委員会」を設ける
- S60年 国鉄が六合地区に新駅設置を承認



祝賀記念チラス

六合駅 完成駅舎



建設風景

昭和61年度

4月26日 六合駅開業・祝賀式

8月9～10日 静岡県社会福祉協議会から「地域福祉活動実践地区」の指定を受ける

1986

1987

1988

1989

昭和62年度

11月29日 岸町大日堂仁王門建立
185年ぶりに修復・落成



修復された仁王門

昭和63年度

1月28日 新谷口橋建設工事起工式



現在の新谷口橋

昭和64年 — 平成元年
1989年1月8日

S64年1月7日 天皇陛下崩御
昭和最後の日
1月8日 午前0時から元号が「平成」
となる

3月 県民の緑化協力金により栃山川緑道
(弘法橋～細島橋間)完成



栃山川緑道

1985

- ・国鉄分割民営化へ
- ・ダイアナ妃来日フィーバー
- ・チェルノブイリ原発事故

- ・伊豆大島三原山噴火
- ・CM: 亭主元気で留守がいい

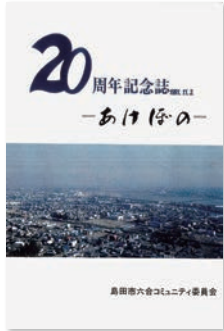
- ・パブル景気が始まる
- ・ヒット商品: 携帯電話

- ・世界最長の青函トンネル開通
- ・カラオケボックスが人気
- ・東京ドームが完成

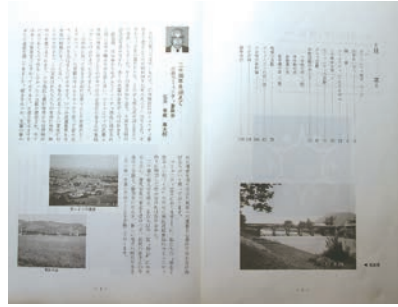
六合コミュニティ 20周年記念

8月10日 コミュニティ 20周年記念夏まつり

11月3日 コミュニティ20周年記念式典開催



20周年記念誌



1992年 9月 公立校の週休2日制(月1回)開始

1995年 4月 週休2日制(月2回)実施

2002年 4月 学校完全週5日制実施



塚本正 先生

生涯を教育に捧げ、校長を退職後、自費で図書館を建て地元の教育に貢献、コミ20周年記念誌の発行を独力でやり、コミ会長の傍ら学校五日制を推進、六合子供チャレンジを創設する等六合コミ育ての親です。



建物風景

11月15日 六合郵便局
駅北口にオープン

平成5年度

平成3年度

1990

1991

1992

1993

1994

1995

平成元年度

初倉(谷口橋端)と六合を結ぶ「桜橋」完成
榛南地域への南北の道路網が確保された



現在の桜橋

平成6年度

11月 六合コミュニティ緑道脇に
記念碑建立



記念碑



緑道を望む

H7年1月15日 阪神・淡路大震災



1990

・第1回大学入試センター
試験が始まる

・湾岸戦争勃発・バブル経済崩壊
・ジュリアナ東京オープン
・雲仙普賢岳大火砕流発生

・皇太子・雅子さまご結婚
・サッカーJリーグ開幕
・冷夏で米不足続く

1995

・地下鉄サリン事件
・ウインドウズ95発売



地域と共に

六合コミュニティ

50年のあゆみ



島田工業高校新校舎完成

六合コミュニティ 30周年記念

10月27日 六合コミュニティ30周年記念式典がおこなわれた



4月12日 岸元島田線開通



現在のロクティ

6月7日 六合公民館(ロクティ)落成を祝う会

平成13年度

平成21年度



平成8年度

六合中学校 開校50周年

10月20日 六合中学校開校50周年記念式典を開催



記念式典



新しい校舎

平成16年度

六合小学校 新校舎完成

8月10日 六合小学校新校舎完成



平成19年度

(学)六合幼稚園 新たにスタート

島田市立六合幼稚園から、民営化し平成19年4月に(学)六合学園 六合幼稚園として新たにスタート



1999

- ・病原性(大腸菌) O157による食中毒各地で発生
- ・東京ビックサイト開催

2000

- ・雅子さまご出産「愛子」さまと命名
- ・ユニバーサルスタジオ・ジャパン、東京デズニシー開園
- ・小泉内閣誕生

2005

- ・新潟・中越地震発生
- ・鳥インフルエンザ流行
- ・自衛隊イラク派遣開始

2010

- ・全国初裁判員裁判が始まる
- ・鹿児島市桜島の爆発的噴火



私たちの住むまち

現在ではダム・堤防により、大雨の時でも水はあふれる事なく流れています。大昔は岸山まで大井川の川原であったようです。今から600年前の戦国時代には、大きな集落も出き新田開発が進んでいたと思われます。明治から昭和で合併を繰り返し、現在に至っている。

六合コミュニティのルーツは六合村発足にあると言われています。



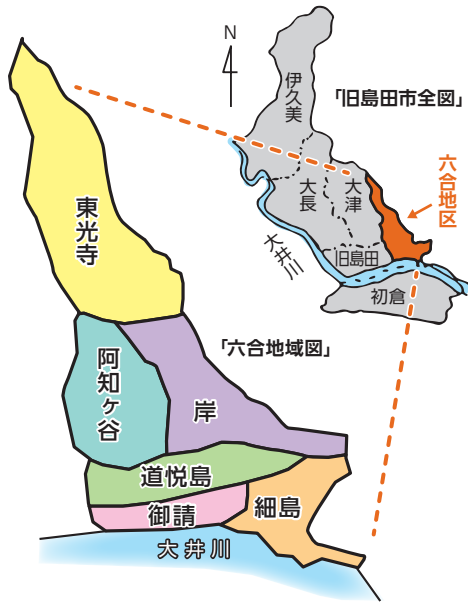
～大井川の昔の風景～



明治頃の帆掛け舟



大正時代のいかだ流し



歴史

- 675年(白鳳3) 仏徳寺(阿知ヶ谷)創建
- 830年(天長7) 東光寺(東光寺)創建
- 1560年(永祿2) 竜江寺(岸)創建
- 1571年(元龜2) 養命寺(岸)創建
- 1658年(万治1) 八幡神社(道悦)創建
- 1770年(明和7) 御請新田が幕府直轄領
- 1778年(安永7) 阿知ヶ谷、岸幕府直轄領
- 1787年(天明7) 道悦島幕府直轄領
- 1889年(明治22) 合併により志太郡六合村
- 1895年(明治28) 六合銀行開業 1932年閉業
- 1930年(昭和5) 六合郵便局設置
- 1954年(昭和29) 六合幼稚園開園
- 1955年(昭和30) 島田市と合併
- 1965年(昭和40) 島田工業高校落成
- 1974年(昭和49) 六合コミュニティセンター竣工
- 1977年(昭和52) 東光寺日吉神社の猿舞が県の無形文化財に指定
- 1985年(昭和60) 六合東小学校開校
- 1986年(昭和61) 六合駅開業

地名のいわれ

「六合」は今から134年程前の明治22年「東光寺村」、「岸村」、「阿知ヶ谷村」「道悦島村」、「細島村」、「御請新田」の六つの村が集まって、この地域に「六合村」ができました。昭和30年に島田市と合併され、大きな地域のまとまり「コミュニティ」として六合地区は発展してきました。

東光寺

東光寺(830年建立)の領地であったため、この名前が付けられた。

道悦島

江戸時代初期大井川の荒地を齋藤道悦が開墾して再興したので、道悦島となったと言われている。

御請

道悦島と細島との土地を開墾し、請い新田としたもの。請所、請所新田とも呼ばれる。

六合コミュニティマーク



マークの意味

六合の合を6個組み合わせ「六合」をあらわすこれまでの意匠を基にした。

合と言う文字を両手を広げ、手をつないでいる人の姿に変形し、地域みんなが手を取り合って発展して行く六合の姿を表現している。

(考案者: 阿知ヶ谷 芝田 農弥)

岸

戦国時代大井川の乱流により荒地となり、山岸に集落をなしていたので岸と言われている。

阿知ヶ谷

住吉阿知の道の領地だったため、また東山に弘法大師が阿の字を刻み付けた岩があったとも言われている。

細島

大井川流域の細長い中州であった。青島村中細島新田より独立した。



六合の今と昔



東光寺日吉神社の猿舞
(県無形文化財)



六合駅南口ロータリーと六合駅



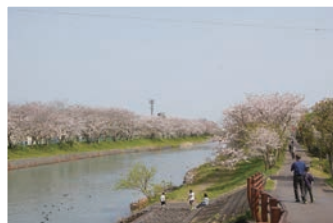
ロクティ(六合公民館)



東町御請線 開通



コミュニティ緑道(栃山川)



大津谷川の桜並木



増田五郎右衛門碑(発祥の地)

私たちの守り神

六合の神社

①



ひよしじんじや
日吉神社

天台宗・東光寺守護神
無形文化財の猿舞

ア



とうこうじ
東光寺

天台宗。足利氏・今川家・武田氏の
古文書が所蔵される。

イ



こうきつじ
香橘寺

曹洞宗。
本堂裏、古木の大雨天は県・天然記念物

④



はちまんぐう
八幡宮

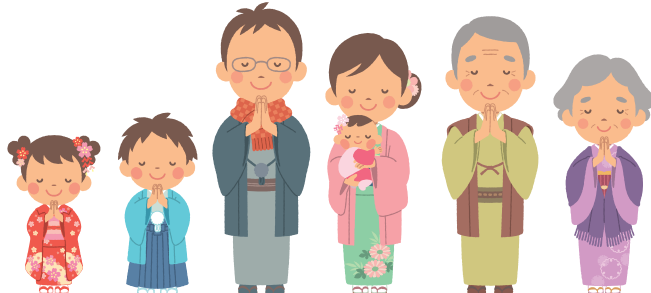
道悦島地域の氏神
英霊を祀る忠魂碑

オ



ふもんじ
普門寺

洞宗。静居寺前から移る
第一保育園(エルフのみらい)が借地



仏閣巡り

私たちを守ってくれる
神様・仏様

私たちの住んでいる六合地区に、どれ程の神社やお寺があるのをご存知ですか。神社は、神様にお願いをすることでと思っている人が多いと思いますが、それはわがままな考えであり、本来は感謝するところです。またお寺は自分たちのご先祖をご供養するところです。これらが本来のお参りの形です。厳かな気持ちになって神社や仏閣巡りをするのも良いのではないのでしょうか。



六合が後世に残したい史実・文化財・景観

(1) 義人「増田五郎右衛門」

増田五郎右衛門は、1777年田中藩志太郡細島村で生まれ、農業をやりながら治水工事の監督を行なう庄屋を務めていた。1816年にこの地方に暴風雨が襲い米が採れない状態が続き、凶作で年貢が納められず大変困り田中藩に年貢の減免をお願いしたが聞き入れてもらえなかった。

五郎右衛門らの代表者は村人達を集め、強訴(集団の訴え)を計画し年貢減免の嘆願書を役人に渡した。藩主は事の重大さを知り年貢減免を決めた。田中藩はこの騒動の首謀者を探索し農民を厳しく取り調べに着手した。五郎右衛門は、農民が罪を被ってはならないと考え田中城に出向き自分一人が仕組んだとして罪を一身にかぶろうとした。村人の寛大の処分の願いに反し五郎右衛門は獄中3年の後、1818年6月28日に藤枝源昌寺原にて打ち首の刑に処され、同時に家屋敷も焼き払われた。村人は五郎右衛門の遺骸をもらい受け密かに「義山玄忠上座」の法号を送り葬った。処刑日の旧暦6月28日は農作業を休み菩提を弔ってきた。その後は八幡神社の境内に義人碑を建立し「五郎祭」として盛大に供養している。現在は暦が変わり7月28日である。

※ 義人(自分の利害を考えずに他人の苦しみを救う人)



八幡神社境内にある建立碑



増田五郎右衛門

(2) 東光寺の「猿舞」 静岡県無形文化財に登録

東光寺の「猿舞」の歴史は古く、今から600年前室町時代までさかのぼる事京都で猿踊りが行なわれたところから来ています。日吉神社は猿神の使いとされ、全国に例のない貴重なものであり現在において「猿舞」が残っているのはこの東光寺の日吉神社です。昭和55年に県の無形文化財に指定されました。東光寺の舞子は、最初に小学校1年生の子が選ばれ一度決まると6年間踊ることになります。1年から3年まで子猿を演じ、4年生になると親猿を4年、5年、6年と演じます。子猿が親猿になるその年にまた次の子猿が1年生から選ばれます。3年ごとに一人づつ交代していきます。地元では親猿、子猿と呼びますが雄、雌の夫婦猿とされています。



猿舞の風景

(3) 大津谷川の桜の景観

六合地区を流れる大津谷川の兩岸2キロに美しい桜並木が続きます。土手沿いには美しい桜のソメイヨシノが並んでいます。また川の流れに沿って桜吹雪につつまれながら散策するのがお勧めです。3月初めには桜の枝の伐採や、この時期になると桜祭りを楽しむためのライトアップも自治会の役員が準備します。川面に花びらが埋め尽くしていく様は、風情もあり夜桜の散策もまた格別です。この大津谷川の堤防は、地元の人を楽しませてくれる桜スポットとなっております。この桜並木の景観を後世に残していくために、私たちはこの地を、いつまでも守って行く気持ちを持ち続けたいものです。



大津谷川桜並木

コミュニティ委員長
神戸 己代治

世帯数	1810
人口	4495
男	2223
女	2272
2021年4月末現在	

我がまち 道悦島

東海道線の六合駅では人々が行き交い、駅横には道悦島八幡宮があります。9月に行なわれる八幡宮大祭では、昼間は子ども神輿が町内を練り、夜は打ち上げ花火や親子で楽しむ「ちびっ子花火大会」などでお祭りを盛り上げます。また、まちづくりのメンバーがイベントを企画し、園児のダンスや、太鼓を披露したり多くの出店でにぎわい昔懐かしい“チンドン屋”が登場したり多くの人が楽しみにしているお祭りです。

年末には、六合駅南口でイルミネーションのトンネルを作り、光の演出で地域の方々を楽しませてくれています。春には大津谷川の桜トンネルを大勢の人が楽しみ、夜桜を楽しく見るための提灯の取り付け準備に精を出し、このような地域の活動の一躍を担っているのが「道悦島コミュニティ」です。

主な組織と役割

道悦島コミュニティは、道悦島自治会の中に会長を筆頭に、道悦1丁目から5丁目・高島町の6つの町内会で構成され、町内会長と保健委員・委員及び代議員の皆さんで構成されコミュニティが築かれています。



大津谷川右岸の桜トンネル



ふれあい祭りで“昔懐かしい”チンドン屋”登場

昔を振り返って

道悦島自治会は他の地区と異なり、役割を分担したコミュニティ独自の組織は持ち合わせておりません。昭和49年に道悦島の中に、コミュニティセンターが出来た頃に、「コミセン」と呼ばれた当時からここが道悦島の拠点のような感覚で利用して来ました。しかしながら市の施設であることから、使用に当たりある時期から場をわかまえて利用して来ました。

八幡宮のお祭りは、祭典委員を中心として余興を計画、実施しております。8年前に自治会OBや有志の任意団体「まちづくり委員会」を設立し、ここが今まで変わり映えしない「六合駅周辺の活性化」を目標に、自治会を中心に活動して来ました。また「地区社会福祉協議会」と連携し、地域住民と福祉でコミュニティ活動を盛り上げております。役員への負担は、他地区に比べ大きい点がありますが皆さん、頑張って役割を担っております。



六合駅南側に作られたイルミネーショントンネル

東光寺コミュニティ

コミュニティ委員長
栗田 美津江

世帯数	49
人口	128
男	62
女	66
2021年4月末現在	

我がまち 東光寺

東光寺は東光寺谷川沿いに家々が並ぶ人口120余人の町内です。

一番奥の東光寺は、天長7年(830年)に慈覚大師により開創された歴史ある寺です。

春は2月頃から梅、3月下旬から桜、その後は藤の花、そして新緑へと移り変わります。

4月に行われる日吉神社の祭典では猿舞が奉納され、多くの参拝客で賑わいます。6月上旬に東光寺で行われる「ホテルの里のコンサート」は20年以上続く年中行事となっています。



猿舞の奉納



主な組織と役割

町内会長を主に年2回の河川の草刈り、ゴミ拾い、9月・12月には地域防災訓練(可搬ポンプによる水だし訓練、炊き出し、テント設営、浄水機による飲料水の確保。)

8月にはコミセン役員主体の町内夏祭り、11月にはグラウンドゴルフ大会などを予定。



河川の草刈り・ゴミ拾い作業



ホテルの里のコンサート風景

阿知ヶ谷コミュニティ

コミュニティ委員長
鈴木 厚

世帯数	684
人口	1846
男	915
女	931

2021年4月末現在

我がまち 阿知ヶ谷

(地名の由来)

阿知ヶ谷という地名の由来は、《当地の山中に「阿」という梵字を刻んだ石があり、阿字谷から阿知谷に転じたとする説(この字は弘法大師が諸国行脚の際に書いたという話を聞いたことがあります但かではありません)》や、《当地を往古阿知直が領していたことに由来する説》もあります。

(歴史)

1889年(明治22年)に、阿知ヶ谷の近隣の道悦島、東光寺、岸、細島、御請新田の六箇村が合併し六合村に成り、1995年(昭和30年)に島田市に編入され、島田市阿知ヶ谷になりました。

1981年(昭和56年)に藤枝バイパス東光寺インターの開通、1986年(昭和61年)JR六合駅の新設開業等交通の向上もあり、田畑の宅地化が進み阿知ヶ谷地区の世帯数・人口は10年前(世帯数562、人口1,647)と比較すると、世帯数+121、人口+196と増加しています。



町内防災訓練の消火訓練



非常用持ち出し物の確認



指導員によるAED講習

10年を振り返って

年間の活動は基本的に次のような事業を行ってきました。

- ・防犯パトロール・交通安全街頭広報・グラウンド除草作業
- ・公会堂等清掃・防災機器点検
- ・市内一斉環境美化運動(川さらい)
- ・ウォーキングとバーベキュー大会
- ・グラウンドゴルフ大会・東光寺谷川クリーン作戦
- ・町内ラジオ体操・町内防災訓練・町内ふれあい運動会
- ・aed講習会・地域防災訓練・元旦早起き会

少子高齢化や意識の多様化もあり、活動内容は町内住民のコミュニケーションの活性化を図るという趣旨は変わらないものの、従来のレクリエーション、体育活動重点から、地震・台風など自然災害から住民の安全を守るための地域防災体制強化に比重を高めていく方向に少しずつ変化してきており、その一例として、令和2年度より、地域自主防災会議の開催や、メール配信システムを利用した情報連絡網を新たに取り入れました。

岸町コミュニティ

コミュニティ委員長
森 茂雄

世帯数	1068
人口	2802
男	1397
女	1405
2021年4月末現在	

我がまち 岸町

岸町コミュニティ会活動の紹介

JR東海道線島田駅より4Km程東に位置し藤枝市と境をなして、北部を岸山の尾根に南側を北西から東に流れる東光寺谷川で囲まれた世帯数約1,069戸、人口2,796(注)の地区が岸町です。因みに、30年前は世帯数450戸余(人口 約1,850)、岸山から眺望する町にはまだ多くの田畑が見られました。岸山の麓には大日如来を本尊とする大日堂(通称大日山)が建立されていて、夏には町民献発の花火大会が催され一昔前には境内に多くの夜店が並びたいそう賑わっていました。

*現在の大日堂は1976年に再建されましたが、1706年に岸山の山腹に遷座再建との記録文書があります。同じく山麓に位置する浅間神社の歴史は古く岸村の村立と時を同じくするならば、今川義元の時代に遡れるかも知れません。現在の浅間神社は明治初期に大井神社と合祀した時から始まります。秋の祭典(10月)では子供達が山車を引き町内を回り夜は境内で演芸大会、くじ引きが催され町民皆大いに盛り上がり楽しんでいきます。

岸町コミュニティ会は1974年に設立され47年の歴史を刻んで来ました。歴代会長、役員はじめ岸町民は『六合コミュニティ宣言』の主旨及び防災、防犯、町内美化などコミュニティ(街)での生活を安心快適にしたいとの思いを持って岸町自治会と共に毎年各種事業を行って来ました。

年度が改まり最初の行事がグラウンドゴルフ大会(6月)です。グラウンドゴルフ同好会(老人会)の方々の協力を得て町民参加で世代を超えての交流をはかり個人戦が行われ、成績優秀者には賞品が与えられます。

8月下旬には子供達を中心としての“夏まつり”が岸町スポーツ広場で開催され、町民による露店が並びポップコーン、わたがしなどの販売の他、くじ引き、手持ち花火、餅なげなどと

子供達の歓声が聞こえる中夜空に連発花火が上がりフィナーレとなるナイアガラが点火され人々の顔を白く照らす中で“夏まつり”が過ぎていきます。

“夏まつり”では島田宿蓬莱太鼓のライブも行われてきました。

9月下旬には町内体育大会が行われます。町内6地区に分かれての対抗戦となりますが“綱引き”“年齢別リレー”競技では各地区対抗意識が前面に出て大きな声援がグラウンドに響きわたります。

11月には6月初旬に苗植えされたさつま芋が収穫時期となり子供達に農園を開放し“芋ほり”大会が行われ、保護者同伴で土まみれになって芋ほりをする子供達を見て大人達も癒されています。

1月1日は“初日の出”。200名程の町民が岸山に登り初日の出を拝みます。下山先は浅間神社。

下山道は渋滞気味になりますが、境内では、お酒、汁粉、トン汁、甘酒が町民を待っており、皆で暖を取りながら新年の挨拶と抱負を語り合います。(注) 行政区“岸”の統計。



夏まつり 餅投げ



夏まつり 露店



体育大会



芋掘り風景

コミュニティから一言

2020年はコロナ感染拡大が始まった年で多くの行事が中止となりました。2021年は感染収束が見えない中で感染対策を取りながら各事業展開をせねばならず苦悩が続きます。

東町コミュニティ

コミュニティ委員長
大石 隆一

世帯数	2530
人口	6748
男	3363
女	3385
2021年4月末現在	

我がまち 東町

我がまち東町の活動について

東町八幡神社境内にてコミュニティ委員会各専門部開催の事業を紹介致します。

元旦に神社境内にてレク部主催にて初詣参拝者に毎年記念品の配布を行います。

記念品は枡、タオルを配布し、お神酒と温かい飲み物を皆様に提供しております。寒い時期ですので少しでも参拝に来て頂いた皆様に温かい気持ちになって頂ければと思います。7月は子供達が待ち望んでおります夏祭りを開催しております。午前中は町内を子供神輿5台が元気に練り歩きます。午後は児童達が村を救った増田五郎右衛門の劇を披露します。終了後八幡神社境内にて子供達が楽しんでいます芸能大会(カラオケ、ダンス)を日々グループにて練習しています成果を皆様に披露します。神社境内では皆さんが楽しみにしています模擬店が出店、皆さんを夏の一つの思い出として楽しんでもらっております。

東小学校グラウンドにて体育振興部主催のグラウンドゴルフ大会を毎年6月と11月に開催致し大人達が楽しんで頂ける様に開催しています。また、文化部主催の文化祭を東町公会堂ひなたにて開催しております。ひなた駐車場内では自治会役員さん方全員にて餅つきを行い来場者方に飲食して頂いております。文化祭の(展示品)は保育園、小学校と個人の方に出品依頼をしひなた2階にて出品者皆様の力作を見学して頂いております。大勢の来場者方に楽しんで頂いております。

昔を振り返って

東町数年を振り返って

東町はこの数年間に家もアパートも増え昔の田園風景が変わりました。現在は各企業も増え東町小学校が立ち、スーパー、薬局、個人病院、娯楽施設があります。地域の皆さんがコミュニティ委員会の各イベントに多くの人達が参加してくれます。



笑顔いっぱい! 元気いっぱい! 六合幼稚園!



園長

太田 裕子

近年、保育の在り方が大きく変化してきています。私たちが教育者として、その変化に対応し、魅力的な保育の実践や見直しを始めています。

子どもたちが、いつもワクワクできる環境があり、その場で、十分に遊びこめる空間・時間を保障していくことが大切だと思います。また、教師の存在も環境の1つと考え、一人一人の保育の資質向上をしていきたいと考えます。

これからも、地域との連携をはかり、みんなに愛される園でありたいと思います。



PTA会長

牧田 靖洋

令和2年度に六合幼稚園のPTA会長を務めさせていただきました。

地域みなさんに支えられ、園の活動をいつも温かく見守っていただけるのが六合の良いところだと感じた1年間でした。

保護者、祖父母が参観できる活動が縮小される中、できる限りの活動に全力で取り組んでいただいた、先生方には、PTA一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

活動形態は、年々変化していきますが、柔軟に、しなやかに、楽しい幼稚園であり続けていただきたいと思います。

教育目標=『生きる力』を育む

めざす子どもの姿=明るく挨拶のできる子 思いやりのある子 自分で考え、行動できる子

六合幼稚園の歴史・活動・コミュニティとのかかわりなど

昭和26年頃、六合地区(当時六合村)に幼児教育施設を設置しようという議論が起きました。その頃は、市内に幼稚園・保育園は2,3園しかありませんでした。場所は、道悦島の普門寺本堂の南側で、L字型の園舎、3クラス分の部屋と職員室という構成で、昭和29年4月8日、開園式が挙行され、スタートしました。

六合地区の幼児教育施設の基礎ができました。また、市への移管が決定され、昭和50年4月1日に島田市立六合幼稚園として新しいスタートを切りました。その後、幼稚園・保育園の民営化が始まり、地元の有志の方々により、平成19年に(学)六合学園 六合幼稚園として、スタートしました。特色ある幼稚園として、リズム・和太鼓・陶芸に取り組んでいきました。

子どもたちが、楽しんでいる和太鼓の発表の場として、六合コミュニティ夏まつりがあげられます。幼稚園での夏まつりでも披露しますが、地域の方の前での披露は、子どもに心地よい緊張感を与え、大きな拍手をいただくことで、達成感を味わうことができます。子どもたちの成長の為のいい経験になっています。他にも、文化祭では、年中児のダンス・リズムの発表、全園児の絵画、年長児の陶芸の展示もさせていただきます。幼稚園にとって、大切な「場」となっています。

園より一言

六合コミュニティ委員会発足50周年 おめでとうございます。50周年を迎えられたことは、地域の皆様のお力添えと多くの皆様が温かく強い意志をもって日々活躍してくださったからだと思います。六合コミュニティ委員会様の益々のご発展を心より祈っております。

10年を振り返って

(学)六合学園 六合幼稚園となり、15年目となりました。

私学の幼稚園となり、園児数も徐々に増え、60人定員から30名増やし、現在90名の子どもたちが通っています。園児数が増えたことにより、生活発表会や卒業式を幼稚園ホールで行う事が、困難になり、ロクティのホールをお借りしています。

この10年で、お仕事をする家庭が増え、子どもたちの様子も変わってきています。生活様式が変わっていく中で、幼稚園もその変化に対応していかなければなりません。六合地域唯一の幼稚園として、本質はそのままに…子どもたちの事を第一に考え、安全・安心の中で育てていこうと思います。

地域の方に愛される幼稚園でありたい。ぜひ、子どもの笑顔いっぱい・元気いっぱいの六合幼稚園に来てください。



六合エルフのみらい・保護者会

生きる力の基礎を養う



園長

中野 恵子

六合コミュニティ委員会発足50周年を心よりお祝い申し上げます。

当園は、昭和51年4月に地域の方々の要望に応え、六合コミュニティ委員会が設立の礎を築いてくださり、保育園が開園し、更に令和2年度からは幼保連携型認定こども園として通算45年間、地域の子育て支援に努めてまいりました。

近隣の方々の温かい眼差しとお声掛けで園児たちは人との関わりや社会性を育んでおります。社会が目まぐるしく変化をする中で、豊かな人間性を育む為には、子どもを取り巻く地域の人的・物的環境が大事です。子どもたちがこの六合地区で人格育成の基盤を培えるよう、今後も地域の皆様と共に子育て支援に取り組んでまいります。子どもたちの輝く未来に向けて、六合コミュニティ委員会の益々のご発展をお祈りいたします。



保護者会会長

袴田 浩三

六合コミュニティ委員会発足50周年を心よりお祝い申し上げます。

日頃より地域の皆様方に見守られ、様々なコミュニティ事業や活動に参加させていただき、園児たちがすくすくと育っていることに感謝とお礼を申し上げますと共に、50年という半世紀に及ぶ歴史と伝統を、地域の方々につなげてこられたコミュニティ委員会の皆様のためまぬご尽力の賜物と深く敬意を表します。

今後も、六合地区に住み、ここで育った子どもたちが地域を愛し、六合コミュニティを担っていかれますように、六合コミュニティ委員会の益々のご発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

園の目標 『豊かな環境の中で心身共に生き生きした子ども』

丈夫な「体」・豊かな「心」・主体的な「学び」

エルフのみらいの歴史・活動・コミュニティとのかかわりなど

子どもたちにとって遊びは欠かすことのできない大事な「遊び=学びの場」であり、「遊び」は乳幼児期の最大の「学び」そして「遊び」こそ子どもたちの生活そのものと言えます。丈夫な根っこが育った木には、たくさんの葉や花や実をつけるように、将来、ここに育つ子どもたちが、自分の力で困難な状況を乗り越え、心豊かに生活している「生きる力」の基礎を育むことを理念とし、乳児期は大人との関わりの中で愛着関係を築き、自己肯定感を育み、幼児期は子ども同士や異年齢集団の縦割り保育の中で、「なんでだろう」「やってみよう」と、興味や関心を持ち、考えや思いを自己表現して主体性を育み、遊びや生活を通して豊かな学びができるよう保育しております。

今後も「こども園」として、質の高い保育・教育を提供していくため、この六合地区の恵まれた環境の中で、子どもたちが地域の方々と交流しながら、いろいろな人たちと出会い関わりを深め経験や体験を重ねて、心も体も生き生きとたくましく成長していけるよう、子どもの育ちと保護者の就労を支えていきます。



六合エルフのゆめ・保護者会

生きる力の基礎を養う



園長

平野 貴久

六合コミュニティ委員会発足、50周年おめでとうございます。

当園は開園にあたり、六合コミュニティ委員会をはじめ、地域の皆様にご尽力をいただきました。昭和54年に保育所として開園し、令和2年度からは幼保連携型認定こども園として、六合地区在住の未就学児を中心に保育・教育活動に注力しております。

少子高齢化が進む現在において、地域の子どもの健全な育ちは、地域の未来を明るくし、希望を創るものと考えます。

今後も地域の皆様のご支援の下、『質の高い幼児教育』を目指して、信頼し、愛される施設でありたいと思います。



保護者会会長

松坂 健

六合コミュニティ委員会発足、50周年おめでとうございます。

園を通して子どもたちが地域行事に参加させていただき、地域の中で繋がりが広がっていくことは、子どもたちの「地元」への誇りや愛着の想いが芽生えることと思います。共働き世帯の増加や核家族化が進む世の中に於いて、私たちも地域の方の温かな眼差しに支えていただくことが多々ございます。六合地区は子育て世代が多く、住みよい町であると感じることも、六合コミュニティ委員会をはじめ、地域の皆様の「地元愛」とご尽力によるものと感謝しております。

六合コミュニティ委員会の益々のご発展を祈念いたします。

園の目標 『夢中になって遊び よく学び(まねび) よく食べる』

温かな関わりの中、愛着関係を築き、自我の育ちを大切にし、自己肯定感を育む。

エルフのゆめの歴史・活動・コミュニティとのかかわりなど

当園は東町運動会、文化祭、ふれあいタイムなど、六合地区敬老会、文化祭などに参加をさせていただいております。地域行事に限らず、教育振興部では、コミュニティ委員・学校関係者の方とお話をする機会を設けていただき、幼、保・こども園、小、中の垣根を超え地域の子どもの育ちについて語り合えることは、六合地区の魅力だと感じます。また、環境整備や保育・教育の充実のため、教育振興・教育文化助成金を活用させていただけることは大変ありがたく、地域の皆様の教育にかかる思いの強さを感じます。散歩中には、温かなお声掛けもいただき、ありがたく思うとともに、地域の中で支えていただいていることを実感いたします。

子どもは親や身近な大人たちなど多くの人に愛されることで愛着関係の基盤を作り、それを栄養素として「自分は必要とされている」「自分は大切な存在だ」という自己肯定感を育てていきます。自己肯定感が高まると、自分も他人も大事にし、社会の中で挫折を味わってもそこから立ち直り、また歩みだせる力、強く生きる力が育ちます。幼児期にその基礎を養うことを当園では大事にしております。成長とともに、子どもたちの社会コミュニティは広がっていき、親や身近な大人だけでなく、地域社会にも自分が必要とされている実感が、更なる『自己肯定感』を育み、そのように地域に見守られた子どもたちが、六合地区の更なる発展に寄与してくれるものと思います。



たけのこ保育園・保護者会

「子どもの良いところが見えるようになるろう」「楽しい子育てをしよう」 保護者・職員と一緒に学び育ち合える保育園



園長及び職員

六合コミュニティ委員会発足50周年おめでとうございます。

六合地区に移転してから37年、認可後18年、阿知ヶ谷へと移転して3年目を迎えようとしています。新しい園舎にも慣れ、リズムをしたり、園庭の土山で泥んこになる毎日を過ごしています。開園当時より地域の皆さまの温かい眼差しのもと自然の中で水や土とともに遊ぶ“さくら・さくらんぼ保育”を実践してきました。

入園進級式や卒園式などの行事には来賓としてご来園いただくほか、毎年たくさんの助成金をいただくなど大変お世話になっています。ありがとうございます。

私たちがこの地域の一員として、コミュニティ活動を盛り上げていきたいと思っています。



保護者会

六合コミュニティ委員会発足50周年、おめでとうございます。たけのこ保育園の子どもたちは、自然に恵まれた六合地区で、すくすくとのびのびと、元気に成長しています。蛍の里コンサートや親子マス釣り大会など自然の中での体験や、文化祭の普段とは違う大舞台での発表を、とても楽しみにしています。

また地域の田畑にて、米や野菜を育て収穫する経験を通じて、食べることを楽しんでます。このような活動は、地域の方々のご協力や環境があってこそ実現出来るものであるため、大変感謝しております。ありがとうございます。これからも、たけのこ保育園保護者会として、六合コミュニティ委員会の一助となれば幸いです。

園の特徴 保育方針

子どもの発達の順序、ヒトが人間になる道すじを大切に、自然を友として遊び、

友達との遊びの中で交わりの力を育て、豊かな文化を身につける。

五感や身体を思い切り使うこと、子どもが主体的に考え、自分でできる事は自分ですることを大切にしています。

たけのこ保育園の歴史・活動・コミュニティとのかかわりなど

たけのこ保育園の歩み

「子どもを産んでも、安心して働きたい」と願うお母さんやお父さんの思いを、多くの皆様に受け止めていただき、大きなご支援のもと、産休明け長時間保育に取り組む、小さな無認可保育園として誕生しました。

- 1974年10月 市内高砂町に「たけのこ保育園」を園児4名、保母2名で開園
- 1984年 2月 市内岸に移転
- 1985年 4月 父母・職員らの協力により、木を切り出し廃材を利用して、自らの手で園舎を建築
- 1993年11月 新園舎完成
- 2003年 4月 「社会福祉法人たけのこ会 たけのこ保育園」定員20人で開園
- 2006年 4月 定員30人に変更
- 2019年 4月 新園舎(阿知ヶ谷)移転 定員50人に変更

リズム等をして筋力を高め、身体の緊張を取り除き、血の巡りを良くします。水や砂、土で遊び、野山を歩き、木に登り、季節の草花に出会い、実を食べ、虫を捕まえるなど、自然の中で全身や指先を使い遊びます。子どもの描く絵を通して、子どもの心と身体と文化性のあり方を学び、子どもが言葉で表現できないものを絵の中から読みとっていきます。

子どもの発達の道すじを大切にしながら、良い文化・本物に触れる体験をかさね、各年齢の時期を豊かにふくらませていきます。

園より一言

阿知ヶ谷に移転して2年が経ちました。現園舎のある阿知ヶ谷をはじめ、旧園舎のあった岸や東光寺、六合地域の皆様に支えられ、ゆたかな保育を日々行うことができています。ありがとうございます。これからも温かく見守っていただければ幸いです。

10年を振り返って

10年を振り返りますと、社会福祉法人となり、徐々に園児や世帯数も増え、保護者も無認可時代から世代交代をした時期でもありました。保護者会活動を通して、自然の中で水や土とともに遊ぶ“さくら・さくらんぼ保育”を実践する保育園の活動や、六合コミュニティの活動への理解を深めてきました。

蛍の里コンサートや親子マス釣り大会など自然の中で、親子で楽しめる体験はかけがえのないものですし、六合文化祭での発表は、保育園を地域の方に知っていただける貴重な場であるとともに、子どもたちにとっても地域や小学校を知るよい機会となっています。

また地域の方にも行事に来賓としてご来園いただくほか、散歩のときに声をかけていただいたり、お米作りの体験や畑での収穫をさせていただくなど、四季折々で交流をさせていただき大変お世話になってきました。

六合地域からの入園も増えてきています。地域の中の保育園として活動を広げていけたらと思っています。





六合小学校・PTA



心豊かに たくましく生きる子



校長

小林 正宣

六合コミュニティ発足50周年を心より祝い申し上げます。

日頃、六合小の子どもたちに感じることは、どの子もひたむきでおおらかだということです。これは、六合というあたたかな地域の中で育まれてきた人柄なのだろうと思います。

子どもたちをあたたく見守って下さる地域の皆様の笑顔に、150年前、六合に3つの小学校が設立されて以来、脈々と続く「地域の子どもは地域で育てる」という思いを強く感じます。

変化の激しい時代を生きる子どもたちにとって大切なことは、生まれ育った故郷への想いです。「六合で育ってよかった」そんな想いが自尊感情を育み、生きる力となっていきます。

私たち六合小職員一同、地域の皆様と共に、これからの地域を担う「心豊かでたくましい人」の育成に全力を注いでいきたいと思ひます。



PTA会長

大塚 由香

六合小は、元気な挨拶と、やさしさ、思いやりであふれています。登下校の様子や学校便りをご覧になり、同じように感じて下さっている方も多いのではないのでしょうか。

そんな子どもたちが育っていったのは、登下校時に子どもの安全に気を配り、元気な挨拶をして下さる見守り隊の皆様、声をかけて下さる地域の皆様のお陰であると感じます。

六合小PTAでは、『子どもの笑顔と未来のための共育』というスローガンを作りました。『共育』という言葉には、大人も子どもと共に育つ、そして、家庭・学校・地域が連携し、子どもを共に育てる、という2つの意味があります。未来を担う子どもたちの共育に、今後も皆様のお力添えをお願い致します。

学校経営の目標：地域や保護者と信頼し合い、共に「学ぶ楽しさがある学校」づくりを進めます！

～家庭・地域との連携・協働(共育・共創)～

美しい学校 美しい言葉 美しい歌声
(うれしいあいさつ、靴の整頓、黙ってそうじ、きれいな歌声)

学校文化 創造



学校の沿革 ～六合コミュニティと共に歴史を刻む～

- 明治 5年 学制発布。道悦島・阿知ヶ谷・東光寺・岸・細島・御請新田の6村が協議し小学校を設立、道悦島誠貫舎、誠貫舎分校(細島全伸寺内)、阿知ヶ谷栄昌舎と称す
- 明治 7年 1月 3校は合併し誠貫舎を本校とし、他の2校を分校とする(12年に再び分離)
- 明治 19年 8月 道悦島学校となる(旧誠貫舎が本校、他を第一分教室、第2分教室と称す)
- 明治 21年 4月 本校を増築し分教室を閉鎖する
- 明治 22年 11月 公立六合尋常小学校と改称
- 明治 34年 4月 六合尋常高等小学校と改称
- 昭和 6年 道悦島559番地に校舎を移築
- 昭和 16年 4月 国民学校令により、六合村立六合国民学校と改称
- 昭和 22年 4月 教育制度改正により、高等科を廃し、六合村立六合小学校と改称
- 昭和 30年 1月 島田市に合併し、島田市立六合小学校と改称
- 昭和 45年 8月 新校舎落成(11607万円)第2学期から授業開始
- 平成 16年 新校舎竣工式(10月)



コミュニティとのかかわり

地域のよさと教育力を基盤とした「開かれた学校」づくりに取り組みます。

六合の宝となる六合小の子どもたちに今後とも深い愛情と温かな思い、ご声援をお願いします。



おじいちゃん見に来てね。



おばあちゃんまた教えてね。



六合東小学校・PTA

みんなで守ろう 東っ子の笑顔



校長

滝下 祥央

地域は「屋根のない学校」と言われます。私には、まさにその通りだと思える六合地区の原風景が思い浮かびます。それは、横断歩道に通学途中の小学生がいたため車を止めると、道を渡った後、登校班のリーダーが必ず運転手である私に一礼してくれる姿です。この姿は、何十年も前から現在も続いています。

教育は、「共に育てる」と書く「共育」でもあると常々考えていますが、このように育つには、学校だけの学びだけではな

く、地域による継続的な「共育」の環境が必要です。子どもたちは、未来の地域の担い手です。また、将来に渡って地域は心の拠り所になります。改めて、地域は教育を考える上で大きな力だと感じています。



PTA会長

本杉 直文

令和3年度 六合東小学校 PTA会長の本杉直文です。六合コミュニティ50周年を心からお祝い申し上げます。

私は道悦で生まれ、育ちました。そして現在は東町に住んでいます。子供の頃に旧コミセンでの子供向け映画上映や祖母と敬老会に参加するなど様々な催しや友人との待ち合わせ場所、敷地内で友人と遊んでいた記憶が今でも鮮明に思い起こされます。今の私があるのは周りの大人たちが見守ってくれたおかげです。

六合東小学校保護者代表として、これからの50年、100年、更にその先と地域発展の担い手となる子供たちを見守って頂けると幸いに思います。

六合コミュニティの益々のご繁栄を心より祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます

学校教育目標：『やさしく 強く 自分らしく』について

「生きる力」の育成を大前提としている。生きる力は「知・徳・体」のバランスのとれた人間力であり、換言すれば、自立(自律)と共生ができる人間像と考える。本校の掲げる「強さ」や「やさしさ」を大切にすることは、まさに自立(自律)と共生の具体に他ならない。また、学校は夢を育む場でなくてはならない。授業を中心とした全教育活動を通して、他人にはない自分の良さ(自分らしさ)に気づき、可能性に挑戦する姿勢や力を培う場とする。

六合東小の歴史・活動・コミュニティとのかかわりなど

島田市立六合東小学校は、昭和60年に開校した比較的新しい学校である。昭和54年、六合小の児童数激増に伴い(977名)分離方針が市議会で出され、その6年後に創立された。

当時から地域との結び付きは強く、「おらが学校」として、愛され大切にされてきた。開校1年目には、東町から校旗を寄贈していただいたり、2年目には、地域の皆様からの寄付によって、アスレチックが設置されたりしている。開校当時は、「裸足運動」の教育が盛んであり、PTAの協力でグラウンドには「裸足コース」が作られた時期があった。運動会は「花と裸足の運動会」と銘打ち、開催された。地域の皆様が運び込んだ様々な花のプランターに囲まれながら、競技をしたという歴史がある。近年では、諸課題から、裸足運動の教育は行われなくなったが、令和3年の今でも、東小の敷地には四季折々の花が美しく咲き誇り、創立当時の地域の皆様の願いを感じ取ることができる。

平成13年「附属池田小事件」を機に「犯罪から子どもを守る」危機意識が高まるとともに、東町で不審者が出たり、近隣地区で子どもたちの連れ去り事件が多発したりしたため、平成15年から「PTA子ども110番の家巡りウォークラリー」が計画された。目的は、以下の3点である。1点目は、子ども110番の家の場所を親子で確認し、非常時にいち早く避難できるようにすること。2点目は、交通ルールを学び、町

内の危険な場所を確認すること。3点目は、自分たちの住んでいる地域を知り、保護者や地域の人たちと触れ合うことである。

平成18年には、六合コミュニティと協力し、「六合地区防犯町づくり協力会」を立ち上げ、平日昼間の「子ども安全パトロール」を行い、子どもたちの安全・安心を守ってくださった。このような地域の皆様の御尽力のおかげで、子どもたちは犯罪等に巻き込まれることなく、安全・安心の環境で生活することができている。「PTA子ども110番の家巡りウォークラリー」の活動は、現在まで続き、その願いは継承されている(R2年度は、新型コロナ禍のため中止。)。令和元年度には、「PTA六東パトロールバック」を作り、防犯意識を高める取組を、地域・保護者と連携して行った(現在も500円で販売中)。

また、東町コミュニティだけでなく、六合コミュニティとの結び付きも強く、夏祭りに、東っ子たちも毎年参加し、楽しませていただいている。また、新1年生とその保護者は、六合コミュニティ委員会が開催する「入学祝いの会」に参加している。地域をあげて、六合地区の子どもたちを育てていただいていることに大変感謝している。今後とも、地域の皆様とともに子どもたちの笑顔を守り育てたいと考えている。



完成時の六合東小学校



現在のアスレチック



PTA 六東バッグ
Aokiyoo Higashi Elementary School
Higashi, Aoi-ku, Shizuoka



子ども110番の家巡り
ウォークラリー



六合中学校・PTA

地域とともに歩む学校



校長

鈴木 利弘

島田市では子供たちの夢を育み、地域愛を育む「夢育・地育」を教育活動の核とし、昨年、全校でコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を始めました。

六合中学校では学校教育目標に「自分を高める ともに創る」を掲げ、「よりよい学校、よりよい地域の創り手」を育むために「自治的な活動」や「地域から学び、考え、地域に貢献する学習」を推進しています。これまでも夏祭りのイベント等に中学生がボランティアとして参加し、地域に貢献することの喜び、大切さを学んできました。今後も伝統ある地域コミュニティと連携・協働し、子供たちの夢を育み、地域愛を育んでいきたいと考えています。ご支援、ご協力をお願いいたします。



PTA会長

磯田 辰哉

六合コミュニティ50周年誠にありがとうございます。心からお祝い申し上げます。

六合中学校PTAでは、常日頃より地域の皆様と共に地域の宝である子供たちを育むべく活動を行っております。大袈裟ではありませんが、人間というものは得てして弱い生き物です。個では生きていくこともままならないのが現状だと考えます。しかしながら、六合にはコミュニティがあります。祭りや文化祭を通して多くの大人たちが子供たちを見守ってくれている。普段の登下校、部活動の行き帰りの際、優しくお声を掛けて下さる。本当にありがたく感じております。これからも六合中学校PTA活動にご指導、ご鞭撻、ご協力を賜りたく存じます。

願う生徒像 心ゆたかに
学校教育目標 自分を高める ともに創る
重点目標 自分から〇〇する

六合中学校の活動

少子高齢化や国際化、情報化など、急激に変化する社会を生き抜く子どもを育成するために、これからの学校は地域との連携・協働が欠かせません。本校には、これまでも地域や保護者の皆様とともに築き上げてきた多くの活動や実績がありますが、今後、そのような活動の重要性はより一層増していくことと思います。

昨年の夏休みには、例年、学校で行っている「夏の補充学習」を六合公民館で開催しました。本校を卒業した高校1年生に「学習ボランティア」として協力してもらい開催したものです。初めての試みでしたが、高校生の熱意によって、教師の関わりも必要ないほど充実した取組になりました。些細なことかもしれませんが、このような縦のつながりは、子どもたちのよりよい成長に必ずつながると考えています。

また、本校は、昨年度からコミュニティ・スクールの取組を始めました。これも、子どもたちの豊かな成長のために、学校と地域が連携・協働して進めていく事業です。学校と保護者、地域の皆様が力を合わせて学校の運営に取り組む「地域とともに歩む学校づくり」に向けて準備を進めていきますので、これまで以上にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



補充学習

PTA活動を振り返って

六合中のPTA活動は保護者・地域の方に支えられています。日頃からお理解とご協力をいただきありがとうございます。

これまで、あいさつ運動や古紙回収をはじめとするPTA活動を通じて家庭・地域・学校が密に関わり、生徒の育成に努めてきたことは、六合地区の誇りだと思います。

昨年まで行っていた古紙回収では、生徒自身が地域の方に協力をお願いして回収を行い、社会貢献と地域との関わりについて学ぶことが出来ました。活動後には、地域コミュニティの方々より、生徒の礼儀正しく取り組む姿勢やあいさつについて多くのお褒めの言葉をいただきました。

目まぐるしく変わる社会状況の中で、古紙回収に限らず以前と同じ活動を続けることは難しいかもしれませんが、規模や方法を変えながら今後もPTA活動を盛り上げていきたいと思えます。引き続きPTA活動へのご協力をよろしく願います。



奉仕作業

おわりに(PTAから)

これまで50年の長きにわたり、行政や関係機関と協働し、町内会・自治会相互の連携と友好を深めると共に、地域の活動や青少年の健全育成、防犯、防災活動など六合の発展、住民福祉の向上にご尽力を賜っておりますことに深く敬意を表しますとともに心から感謝申し上げます。

島田工業高校

璞よ、磨き、輝け、島工生



校長

深澤 富士夫

六合コミュニティ委員会の創設50周年、誠におめでとうございます。半世紀という長い歳月を経て、この日を迎えられることは、ひとえに、これまでの六合地区のまちづくり推進に関わってこられた皆様一人ひとりの地道な努力の賜物と心より敬意とお祝いを申し上げます。本校は工業技術立国を支える技術者を育成する教育機関として、昭和38年に創立され、これまでの卒業生は15078人となりました。卒業生の多くは地元企業等に就職し地域産業の振興に貢献してくれております。校訓「璞磨」のもと、教育目標を『豊かな人間性と創造力を持った技術者の育成』と定め、ものづくりや特別活動への積極的な活動により、主体的な将来設計能力と豊かな人間性の育成に取り組んでおります。本校の高校生が親子工作教室などを通して、六合地区の皆様と触れ合うことにより、自己肯定感の高まりや地域愛が育ってくれていると思います。今後ともよろしく願い申し上げます。

校訓「璞磨」のもと、教育目標を『豊かな人間性と創造力を持った技術者の育成』と定め、ものづくりや特別活動への積極的な活動により、主体的な将来設計能力と豊かな人間性の育成に取り組んでおります。本校の高校生が親子工作教室などを通して、六合地区の皆様と触れ合うことにより、自己肯定感の高まりや地域愛が育ってくれていると思います。今後ともよろしく願い申し上げます。

静岡県立島田工業高等学校校歌

昭和40年10月22日制定

高原 博 作詞
高田 三郎 作曲

朝風わたる 大井川
千古の流れ とゞろけば
眉を張りたる 若人が
叡智の世紀 築かむと
誠実の璞を 磨くかな
あ、光りさす わが学舎

二
夕べは遠き 茜雲
阿知ヶ谷の野に 映ゆるとき
力協せて 若人が
技術の道を 拓かむと
創造の灯を かざすかな
あ、新なり わが歩みよ



沿革

昭和37年3月19日静岡県議会において、昭和38年4月1日より静岡県立島田工業高等学校を設置することが議決され、昭和38年3月25日第一期工事により第1棟が竣工された。当時の募集定員は機械科120名、電気科12名、建設科80名(土木コース40名、建築コース40名)であった。同年4月8日に第1回入学式が挙行され364名の入学生を迎えた。その後、昭和42年に建設科が建築科と土木科に改編、昭和63年には電子機械科が新設(機械科1学級減)、平成4年には情報技術科が新設され(電気科1学級減)、工業6学科の体制となった。平成10年4月「くくり・類系制」がスタートし、募集定員240名、土木科が都市工学科に学科名を改称した。[工業I類(機械科、電子機械科、電気科、情報技術科)、工業II類(建築科、都市工学科)]

平成11年11月30日に現在の新校舎(南棟及び北棟)が竣工し、続いて平成13年3月には第1.2 実習棟が曳移転工事され、グラウンド等の整備工事も竣工した。平成13年11月16日に新校舎落成記念式典挙行され、校訓「璞磨」が制定された。平成19年11月15日にグラウンドの人工芝化が竣工。平成24年11月9日に創立50周年記念式典挙行された。平成30年4月1日電子機械科と情報技術科が情報電子科に改編され、募集定員200名(1学級減)となった。

[工業I類(機械科、電気科、情報電子科)、工業II類(建築科、都市工学科)]



電子機械科実習風景

学校より一言

東海道随一の工業高校を目指し教育活動を続けている本校ですが、創立当時から地域や社会へ質の高いエンジニアを輩出していると自負しています。現在、産業技術はAI、ICT、自動運転や5Gのキーワードに示されるように技術革新が著しいですが、校訓「璞磨」のとおり、社会に出ても光り輝く「玉」となるよう自分自身で課題を見つけ解決し、自身を磨き続ける技術者を育ち続ける所存です。



六合公民館(ロクティ)



令和2年度 公民館職員

公民館の役割・目指すもの・コミュニティとのかかわりなど

〈概要〉

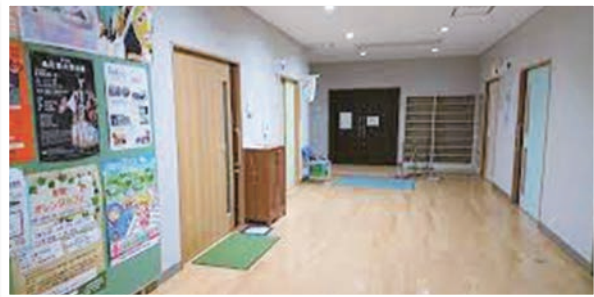
六合の人口は令和3年2月末現在 15,993人 6,106世帯です。この地区の文化の発信拠点として六合公民館があります。旧六合コミュニティセンターが老朽化したため、平成21年3月に新館を建て、愛称を地域住民から募集し「ロクティ」と決定しました。以来六合公民館は、ロクティと呼ばれています。「六合コミュニティ委員会」の事務局は公民館内にあります。六合地区の明るく住みよい街づくりを目的とした公民館とコミュニティ委員会とが連携・協力して地域に根ざした事業を展開しています。また、行政サービスセンター、図書コーナー、地域包括支援センター、放課後児童クラブを併せ持ち、地域の多様な要望に対応し子どもからお年寄りまでが集う生涯学習の拠点です。鉄骨2階建てで、多目的ホールをはじめ8つの部屋があり、収容人数は472人です。駐車場スペースも大きく88台収容できるため、年間4万人を超える利用者がいます。市民学級・高齢者学級のように六合の人・もの・ことを学ぶため学級生が自主的に計画運営する講座のほか、スマホ講座やヨガ講座など時代のニーズに合った魅力的な講座を展開しています。また、六合コミュニティ委員会が主催する夏祭りや文化祭などの行事にも積極的にかかわり、地域の皆様が気軽に集うことのできる公民館を目指しています。



子育て広場



六合公民館外内観



ヨガ教室



スマホ教室

公民館から一言

六合コミュニティ委員会発足50周年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。時代は昭和、平成、令和と変わりましたが、コミュニティ委員会が地域の皆様の思いを紡ぎ、「学ぶ、つなぐ、結ぶ」活動を続けてこられたことに敬意を表します。生活様式が変わり、身近な人と人とでさえつながりが薄れ、コミュニケーションがとりにくくなってきている時代です。しかし、だからこそコミュニティ委員会の活動はますます大切になると思います。毎年、4月には厳しい顔をしている役員の皆様が1年たった3月には笑顔で語らっている姿を見ると今年も充実した活動ができたのだと思います。私たちもそうした活動のお手伝いのできたことに喜びを感じます。これからも60、70周年に向けて地域の皆さんが手を携えてコミュニティ委員会の活動が続いていくことを願っています。

団体からの寄稿文

あけぼの健康グループ



代表 鈴木 美佐子

コミ50周年おめでとうございます。

あけぼの健康グループもコミセン完工と同時に活動を始めたので感慨深いです。

当時の先輩方が「食生活を通して地域住民の健康づくり」を目指した熱意と行動でセンター内に調理室が設けられたと聞いています。調理用品は一つずつ会員が揃えていき、新聞社の料理レシピの応募の懸賞金等も資金にしました。食推協の推進員として活動する中コミの行事に関わらせていただき、一人暮らし高齢者招待事業で昼食作りをしました。

コミ文化祭では試食や喫茶コーナー開設と展示物で食生活の大切さを伝達しています。親子マス釣り大会は東光寺会場の時から豚汁サービスと五平餅の販売等どれも楽しく参加させていただいています。今はロクティの明るい調理室で種々の調理器具に囲まれ、先輩方の意志と伝統を受継ぎ、管理栄養士塩澤先生に生活習慣病予防食等を学びながら和気藹々活動しています。

韓国語講座 アンニョンハセヨ



代表 桜井 和好

10年ほど前に六合公民館で始まった韓国語講座。

講師のチェ・ウンジン先生の転居で危機を迎えましたが、そのまま自主的に勉強し続

け、初級、中級教科書も終了することができました。

韓国の歌もやりましたし、いくつかの韓国ドラマも鑑賞しました。今は、かつて爆発的な人気を得たペ・ヨンジュンとチェ・ジウ主演の「冬のソナタ」のセリフ本を皆で読み、訳し、終わった部分のドラマ鑑賞をしています。数名の人が新たに加入してきましたが、基本の学習は講座終了後15分~30分程度で補いながら続けてきました。

新たに加わった人たちが急速に力をつけ、初めからの人たとほとんど変わらず楽しんでます。韓国語から日本語に変身した言葉たちや古代交流史なども時折りやる、バラエティに富んだ講座です。

ガネーシャ



代表 提坂 美江子

毎週火曜日の夜に、ヨガを習っているサークルです。参加者は最高でも8人位で、密を避けてます。身体を柔らかくするためにヨガを習い始め

ましたが、始めて見ると奥が深く、心と身体が連動している事を意識するようになりました。

頭が固い(固定観念)と身体が解れないと実感してます。身体を解すだけでなく、時には激しい動きがあったり、資料を貰って話を聞くこともあります。身体も気持ちも以前より柔らかくなってきました。そして、週に一度ヨガをやることで、頭と身体をリセットしています。時には指ヨガ、眼ヨガ、耳ヨガ、笑いヨガ等、色々取り入れたレッスンをしてくれるので、変化もあり、友人との話題づくりにも役立っています。

コーラスねがい (新婦人島田支部)

代表 広瀬 美知子

新日本婦人の会(新婦人)は、1962年10月19日、平塚らいてう、いわさきちひろら各界の女性32人の呼びかけで創立され、全国に支部が作られました。島田市にもその直後に支部が作られ、活動に波はあったものの今に引き継がれています。活動の一つに会員の要求に応じて行う小組活動というものがあり、その一つが六合公民館で月に2回行っている「コーラスねがい」です。

そこでは会員が歌いたい歌をみんなで一緒にあるいは二部に分かれて歌っています。よく歌っている歌は「四季の歌」「青い空は」「祈り鶴」「ジュゴンは歌う」「この町から」などです。毎年、フェスタしまだでも歌声を発表しています。現在はコロナ禍の中でマスクをして小さな声で歌っていますが、以前は歌いたい歌を大きな声で歌い、おしゃべりもいっぱいして楽しいひとときでした。大きな声で歌える日が早く来ることを願っています。



団体からの寄稿文

コールシクラメン



代表 清水 功子

女声合唱コールシクラメンの誕生は、昭和52年。街角に布施 明の「シクラメンのかほり」が流れていたことからそう命名し、これまで40余年に

わたり、六合コミュニティの一環として活動してまいりました。当時、島田二中の合唱部を指揮されていた鳥居先生をはじめ、多くの素晴らしい指揮者にも恵まれ、たくさんの歌と友に出会うことができました。コロナ禍により、ここ1年程は練習を休んでおりましたが、「再開」の声を受け、練習時間を夜から昼に変更し、また歌い始めています。上手い下手は関係ありません。歌のお好きな方なら誰でも大歓迎です。是非、一緒に楽しみましょう。



ハーブの会



代表 藤田 道代

忘れられない思い出

今から31年前、「子育てしながらも、月に一度くらいゆとりあるひとときを過ごしたい。プロ並みのお菓子作りの達人に作り方を教えて頂き、作る喜びを味わいたい。」という思い

で、六合地区の友人、知人に声を掛けさせて頂いたのがハーブの会誕生のきっかけでした。平成5年には、地域の小中学生にお菓子作りの講師の依頼があり、話し合いをした結果、グループとして引き受けることになりました。最初の数年は、応募者70名、年間6～8回の講座があり、自分たちのサークル活動というよりも、講座中心の慌ただしい日々となってしまいました。しかし、それから24年間、「地域の子どもを地域で育てる」という推進委員の方々の理念に賛同して続けていくことになりました。六合コミュニティ50年の歴史の一部分ではありますが、一つのことを継続していくことの難しさ、それを乗り越えた時のグループとしての何物にも代えがたい成長、達成感がありました。今では忘れられない思い出です。現在、新型コロナウイルスの影響で、サークル活動は自粛していますが、コロナが終息した折には、新しいメンバーを加え、私たちが元気で輝いていることが、六合公民館に恩返しができることになると思っています。

パールビーズクラフト



代表 塚本 繁子

趣味を持つことが人生を豊かにする。そんな想いから、私達はパールビーズクラフトを続けています。メンバーは経験5年から20年の女性7名で「デリカビーズ認定講師」の

柴田キミ子先生のご指導の元に活動しています。最近のビーズは種類や色も豊富になり、カットや色彩も美しいビーズが増えてきました。ビーズ、糸、パーツをヤットコ、ニッパー、目打ちの道具を使ってビーズを編み込む手芸、ビーズを織り込む手芸を楽しんでいます。

心を込めて丁寧にネックレス、ブローチ、指環、タペストリーを製作しています。アクセサリを作っている時のワクワク感、出来た時の喜びを一緒に分かち合っ、ビーズの素敵な時間をメンバーで共有しています。月1回のビーズ教室では柴田キミ子先生に素材の特性や道具の使い方、基礎のテクニック等、さまざまな技法やデザインを学んでいます。

昨年はコロナ禍で中止になりましたが、毎年六合コミュニティ文化祭に作品を出品する事も目標の一つにしています。興味のある方のご参加をお待ちしています。

島田ハイキングクラブ



代表 池谷 延房

1996年開催の「市民登山講座」受講メンバーにより創立され、25年目を迎えました。

毎月の定例登山と土日の半日で会員外の方も参加可

能な「おはようハイキング」、夏・冬合宿、安全講習会等と活発な活動により会員同士の親睦や技術・体力を深めています。最近では、会員の長い経験や平均年齢の上昇に伴い登山スタイルも『頂きを目指す』だけでなく、歴史・文化も同時に楽しむ方法と多様化し、「京都一周トレイル完踏」や「高野山女人道ハイキング」、青春18切符利用の「鎌倉アルプス登山」等が行われています。昨年は新型コロナ禍により一時活動を休止しましたが、十分な予防対策により活動を再開しています。

今後も会員各々の志向に応じた多様なスタイルの山歩きに広がっていくと期待しています。尚、当会活動はブログでもご覧いただけます。

団体からの寄稿文

はっらっ3B体操



寄稿 鈴木 美佐子

コミ五十周年おめでとうございます。

「健康で安らかな心」「健康で美しく」「健康で美しく老いる」の3つのスローガンを掲

げ始めた3B体操も今年で50年になります。六合コミセン集会所で大石先生のご指導で始めてから25年になります。体操は用具と音楽を使って、年齢や体力、対象者に合わせた運動やダンス、ストレッチを行います。指導者やメンバーの入れ替りがありながらも身体の教養と健康を求めて大勢の方が体験されてきています。

コミの文化祭では六小体育館でステージ発表を楽しみました。入学祝いの会ではカラフルな用具と楽しいリズム曲で集団遊びの体操を喜んでいただきました。

現在はロクティの多目的ホールでシニア向けの無理のない体操と会話で仲間づくりをしながら肉体的、精神面のケアをして心地良い時をすごしています。

ハングルコンブ会



代表 小田部 雅子

「アンニョンハセヨ!」定刻前に全員が集まる。ご近所に住むチョン・ユソン先生は生徒達にとって娘ほどの若さ。「一番古い友達是谁ですか?」授業は毎回、笑顔の先生の問

いで始まる。私達は四苦八苦して韓国語で答える。

そして本題に入るのだが、授業はしばしば教科書を離れ、韓国の生活事情や食べ物、しきたり、時には悩み相談にまで至る。

平成24年、市の募集で集まった韓国語講座二回生は10人だった。様々な事情で半数に減り先生も替わった。分厚い教科書は中級の後半に入った。

8年も経ったわりにはかなり成長の遅い私達だが、それでも冒頭の質問に韓国語で答えることができ、ハングル文字を読み書きでき、毎回のハングル日記も欠かさず提出できている。先生の赤ペンの添削も楽しみの一つだ。前に一度韓国旅行をした。今も2回目の機会を待っている。(ハングルコンブ会)の〈コンブ〉とは勉強の意味。月に2回楽しく〈コンブ〉している。

プチコーラス



代表 櫻井 ふく子

「継続は力なり」

この原稿を書くにあたり私たちの始まりはいつだったか?と振り返って見ると、いつの間にか約30年の月日が経っているのに気付かされ

ました。大きなコンクールに出るわけでもなく、年に一度の小さな発表会には、一人1,000円程度の衣装と手作りのコサージュ。上手くハモれなくても笑ってごまかし、練習日は和気あいあいと。発声は日常会話、練習曲は童謡・ポップス・カラオケ曲となんでもかんでも、気楽にズルズルと続いて来ました。

しかしながら、「継続は力なり」美声ではなくてもメンバーは発声・発音・滑舌・全員元気です。プチコーラスの練習日は楽しく歌って会話して、楽しい一時を共有し又明日から頑張ろうと言う感じです。マスクをして窓を開けて、夜19時からの練習ですが、私達と一緒に元気になりたい方お待ちしております。マスクを取って大きな声で歌える日が早く戻るようにと、これからも継続です。

フラワー教室



代表 山田 ふさ子

「もう50年経ったのですか?」原稿を頼まれて、改めて40年近くアレンジメントの教室に利用させていただいてきた歳月を振り返りました。

たまたま生け花教師の資格のあった私は、当時の婦人部長から正月花講座の依頼を受け、そのまま教室を継続してほしいとの希望があり今に至っております。

活動としては、市の文化祭、コミュニティの文化祭の出品など、大賑わいでお花のレイアウトを研究し合い又、敬老会には六小の講堂に大きな活け花を飾り、みんな燃えていたナーと、コミュニティの一員としての思い出を懐かしく思います。30年程度前、フラワーアレンジメントに新しく転向しました。生花を扱う事に変わりはありませんがいろんなジャンルの表現を毎回楽しんでおります。生徒さん方も入れ替わりましたが、沢山の方達とも知り合い、新しいロクティを教室に使用させていただく幸せを実感しております。

団体からの寄稿文

ふれあい手編み



代表 野口 しづ子

ロクティと私

六合公民館がコミセンと愛称され再生してロクティと呼ばれようやく定着して来た感があります。五十周年本当におめでとうございます。

振り返ってみますと、自分の子供達の小・中学校の謝恩会等P.T.A.行事に始まり委員会の書記、保健委員、市民学級といろんな行事に参加させて頂きました。自分の六合中学同窓生達とはコミセンならぬ六泉(ロクセン)会にも入れて頂きその後は「コミセンゆかりの会」には夫婦で参加させて頂き年に一回の楽しい行事を首を長くして待っています。

人生の折に触れ、ロクティで知り合った方々とおつき合いが私を育ててくれました。ロクティって何かと聞かれたら「私の居場所です。出かけて行ってコミュニケーションをとる場所」と答えます。そろそろ人生の卒業も近づいて参りましたが、気分はまだまだ現役続行中で、ふれあい手編み教室の講習を続けて参ります。

追伸・・・生徒さんからの一言です。

初めて手編みと出会ったのは昔の公民館でした。展示作品を見て「私も編みたい・・・」あれから十数年今も様々な模様挑戦しています。近くに公民館がある事で私の生涯学習はこれからも安泰です。

ロクティ様へ

いつもありがとう これからもお世話になりますよろしくお祈りします。
生徒一同より

ムゲン健康クラブ



代表 藤岡 まつ枝

普段私たちは、このクラブを「料理教室」と呼んでいます。というのは、活動内容が健康料理の実習と健康に関するミニセミナーであるから

です。講師は料理研究家であり、自然農法の実践者でもある、山梨在住の佐藤先生です。使用する食材のほとんどは、無農薬野菜、きのこ、海藻類ですが、たまにベーコンやカニ缶等があると歓声ものです。調味料は家庭にあるものばかりですが、安くて早くて美味しいと評判です。各地で講師をされる先生は、この明るく広い調理室と器具の揃い具合は、トップクラスだと言われます。最高の調理室で、楽しくて美味しくて為になるこの教室は、毎月第4金曜日の11時～14時。会費は、材料と使用料込みで700円。年会費は無しです。興味を持たれた方は、いつでも参加可能ですのでお気軽にご連絡ください。心よりお待ちしております。

ロクティペン書道クラブ



代表 山崎 敦子

六合公民館開館並びに委員会発足50周年を迎えられ、誠におめでとうございます。昭和46年に開館し、翌47年からペン書道クラブが岸にお住まいの宮地先生の

御指導で 月2回夜7時～9時まで一度も休むことなく歩んでまいりました。親や家族の介護、自分の都合や体調を悪くして退会された方も多くいます。又字を習ってみたいと入会して下さった方もいて今は少数ですが頑張っています。

H28年4月から会員が高齢となり、夜から午前10時～12時、月2回第1・3木曜日、工作室に練習日を変更しました。最近では島田・六合文化祭に出品する前の8月終りに先生に作品を添削して頂く貴重な時間を設けました。普段は以前頂いたお手本で自発的に練習を続けています。芸術の秋は各地で展覧会が催されます。どんな作品も夏の暑さと夜の睡魔と戦って仕上げた一点作品と思って鑑賞して頂ければ頑張り甲斐もあり幸いです。

一期会



代表 中村 美穂子

時の流れと共に

昭和52年婦人学級(現在 市民学級)で学習した井伊直弼が著した「茶湯一会集」の中の一期一会と第一期のグループ

誕生として『一期会』を園田八重子さんを中心に立ち上げました。一期会は文化祭で抹茶の接待や六合こどもチャレンジのお手伝いをしています。ずっと一期会を支え、ご指導をくださった園田さんと平成18年にお別れし、会員一同途方にくれましたが今まで教えていただいた事を一年を通して思い出し確かめ合いながらやっつけよう決めました。

令和になっても会員に会え、四季の草花を愛で季節の美味しいお菓子と抹茶をいただき、話の中で沢山学び大いに笑い・・・リフレッシュをするロクティにつどう仲間達です。



団体からの寄稿文

蕎麦打ち同好会島田



代表 山下 勝

私たち「蕎麦打ち同好会島田支部」は県下に13支部ある静岡蕎麦打ち同好会の1つで蕎麦をこよなく愛する20数名が毎月第3土曜日に、ここ

ロクティを拠点に活動すること今年で14年目を迎えることになりました。

「自分で打ちたての美味しい蕎麦を食べたい」その一心で腕を磨いていますが、毎回反省の連続で蕎麦打ちの奥深さを知ると同時に先生達の楽しくも厳しい?!指導のお陰でますます、その虜になっているところです。年間を通じロクティ以外でも活動の場を広げいろいろな地域のイベントに参加出店しております。特に地元島田の夏まつりには毎年多くのお客さまが「打ちたて」「茹でたて」の蕎麦を求めて行列ができるほど大変好評を博しています。蕎麦打ちに興味のある方、一度見学に来てみませんか?もちろん老若男女問わず、全員いつでもウエルカムでお待ちしております。

若栄会



代表 若栄会若紫鶴栄

六合コミュニティ開設50周年おめでとう御座居ます。若栄会は旧コミュニティセンターを経て、六合公民館を15年にわたり利用させて頂いています。この厳しいコロナ禍の状況において、職員の皆様のお力ぞえで、

週2回(水・金、13時～17時)、けいこを続けております。

若栄会は、昔ながらの踊り、古典舞踊を主としています。地域の行事にも少人数ではありますが、参加させて頂いています。年齢は60才から80才ですが、師匠自らの指導です。けいこのおかげにて、自分の健康状態に留意しながら、日々、めりはりを持ち、楽しい時間を過ごしております。けいこ仲間とおしゃべりも大事な時間です。季節の着物の色、柄、帯、帯メ、と、そのとり合わせを考えながら、着付けの勉強にもなります。古典舞踊をする事は、昔の暮らし、考え方を知る事が出来ます。ぜひ、一度お越し下さい。お待ちしております。

これからも、コミュニティを支えてくださる皆様に、感謝申し上げます、すえ永くおつき合いくださる様、宜しくお願い致します。師匠を初めとして、弟子一同、一日でも多く、公民館を利用出来る事を願い、皆様に暖かい気持ちで見守っていただきますよう、又、御意見、感想等を聞かせていただければ幸いです。

令和3年4月若栄会一同

寿会



代表 八木 悟

六合コミュニティ委員会発足50周年誠にありがとうございます。私達寿会は昭和57年飯塚晴三、平成元年大滝吉雄、3年大石正司、16年森光司、18年松野とし、20年森鎌吉引継ぎ27

年の私で9代目となり会員25名で現在は58名この間会員加入促進運動が始まり県表彰を3回受けました会員皆で常に意識を持ち声をかけた結果です。

昔は65歳以上になると必然的に誰もが老人会に入会していたようです。活動も地域と密着して毎年津島神社、地藏尊薬師如来の3件を任されて祭礼や法要と供養を行い周囲の草取り掃除等やってきましたが会員の高齢化と会員の減少で祭り事が困難となり町内会へ戻りました。地藏堂は老人会の会合集りと居場所として活動の拠点として長年使用して来たが墓地世話人の方の都合により返しました。丁度ロクティが出来ましたので活動の拠点を移しました。

毎月の定例会、毎年ゴキブリ団子作り、陶芸、蒟蒻作りの教室を開き、コミュニティの文化祭に陶芸作品を出品参加します。バス旅行と市老人福祉センターへ行く時は集合場所として利用しており近くで便利で気軽に利用できるのがありがたいです。これからもロクティを中心に活動を続けて行きます。

書道部



代表 大石 武義

書道部で楽しんでます

六合に公民館が開設されました。人が楽しく集まれる場所にと「書道部」が作られたと聞いております。

“書” 字を書くこと(へたでいい・下手でいい・他人に真似されるようになれば、もっといい)

“道” 道のり(会員数少ない時は2名)、過程(恥もかき・失敗もしばしばでした)

“部” 仲間が褒め合い・励まし合い・助け合ってきました。

今も楽しく行なっています。月2回の練習日。墨をすりながらの話し合い。字を書き始めれば黙々と、一本一本の線に思いを込め組み合わせと余白を楽しんでいます。六合公民館・コミュニティ・小学校、3つが1つにつながっています。これからも住民の方々のつながりをより強め、顔を見て話し合い、明るい六合地域づくりを楽しみましょう。

団体からの寄稿文

正親流正粋館



代表 岡部 禎子

こんにちは。剣詩舞道正親流正粋館です。剣詩舞道は一般の方にはなじみが薄いかも知れませんが、剣舞と詩舞にわかれていて、それぞれ

詩吟に合わせて着物袴姿で舞います。剣舞は主に刀を使い詩の意味合いを表現し、戦いの場面など勇ましく力強いものが多いです。一方詩舞は扇を色々な物に見たて詩の風景情景などを優雅に表現します。どちらも一回踊るだけで、かなり体力を消費しますね。私たちは毎週火曜日に集まって、お稽古に励んでいます。ただし、皆高齢者なので、おしゃべり半分踊り半分で、足が痛い腰が痛いと言いながら集まることを楽しみに続けています。剣詩舞にご興味のある方は、ボケ防止を兼ねた運動と思って一度見学にお越し下さい。そして、扇を手にして一緒に体を動かしてみませんか？



太極拳きらめき



代表 松崎 妙子

この会は、島田市の旧体育館で行われていた太極拳講座で、練習に参加していた者が10名程集まり、このロケティにて太極拳をより深く

学ぶ事を目的に「きらめき」という会で活動を始めました。現在10数年が過ぎましたが、その間には島田市の夏祭りや産業祭等にて太極拳演舞を披露したりもしてきました。3年程前よりは新しい講師に亀山先生を迎え、太極拳と同じく中国武術の1つであるベンカン(鞭杆)の習得を目指しています。会員は新メンバーも加わり現在は16名にて活動中です。練習しているのは、とうろ(型のこと)で、身長約7割程の木の棒を動かしながら太極拳のように動きます。ベンカンを持って運動することで、手先だけでなく肩、胸、胴、脚の体全体の動作機能の改善がみられるようです。全員が高齢者ですのでなかなか頭の中身と体の機能が思うように使われず、ゆっくりとしたペースでの習得となりそうですが、がんばっています。

島田エアロビクス



代表 坂本 里律子

この度は、六合コミュニティ委員会発足五十周年記念おめでとうございます。六合コミュニティの歴史にご尽力された方々へ心より御礼申し上げます。

“継続は力なり”と申しますが、その歴史には大勢の方々の継続的なご努力があった事と想像致します。

私共島田エアロビクスも、この六合公民館多目的ホールをおかりして、毎週運動を行なっています。音響設備も充実して大変ありがたいと思います。六合地区の方が多く、近くで運動ができ発散とリフレッシュができ嬉しいとの声が多く聞かれます。レッスンの後半はヨガ・ピラティス・ストレッチで全身リラックスで心も身体も整えます。この素晴らしい空間と時間をこれからも“継続”できるよう六合の先人の方々を見習って、健康づくりに努力していきたいと思っております。

島田フィルハーモニー管弦楽団



団長 河原崎 浩也

島田フィルハーモニー管弦楽団は島田市近郊のメンバーによる市民オーケストラで、秋に定期的に行う演奏会と文化協会主催の秋の文

化祭、6月の市民音楽祭への参加が主な対外的な活動です。こちらの施設では地域連携室または多目的室での合奏練習を日曜日の午後に行っています。どちらのホールも十分な広さで音がこもったり反響したりせず音響的に使いやすいホールと思います。

島田フィルハーモニーが結成されて以来、長きに渡って六合公民館にお世話になっています。人数の少ない当楽団としては本当に有難い事です。演奏会ではバロック、古典、ロマン派のクラシック音楽を中心に採り上げています。昨年はコロナ感染のため対外活動ができませんでしたが、12月には団内のアンサンブルコンサートを一般公開して地域の皆様にも楽しんでいただけたと思います。今後も地域の音楽文化を盛り上げる活動を続けていきたいと存じます。

団体からの寄稿文

島田フレンドサークル



代表 大井 加代子

50周年記念誌発刊おめでとうございます。1995年春、引っ越して来たのを機会に、六合地区にスクエアダンスを広めたいと、旧公民館に館

長さんを訪ねたことを思い出します。

音楽好き、運動好き、おしゃべり好き等、様々な目的で集まり、会員の増減はありましたが、男性も加え、毎週25人程で楽しく踊っています。今はコロナ禍で出来ませんが、たまにはコスチュームを着て、非日常の時間も楽しめます。当初からのメンバーも多く、歳を重ねても、元気で笑顔を忘れず、踊っていたいね! と話しています。



島田宿蓬菜太鼓



代表 松浦 清子

和太鼓大好き!そんな仲間が集まり、平成13年12月にグループを発足。平成14年5月に蓬菜橋ぼんぼん祭りでデビューし、地域のお祭りや潮州市友好都市提携15周年

祝賀にも出演させていただいたり、リッチモンド市民との交流会にも参加させてもらい、とても良い経験をしました。体全体に響く振動、力強さや明るさなど和太鼓は人を引きつけるものがあります。人と人のつながりをこれからも楽しく続けていきたいと思ひます。

練習

- ・六合小多目的ホール・毎週木曜日(月4回)
- ・午後7:00～8:30分・小学生～(男女)
- 興味があったら練習見に来て下さい。

今までの活動

- ・市のイベント(マラソン大会他)
- ・地区のイベント(六合祭り他)
- ・介護施設のイベント(夏祭り他)
- ・六合小太鼓クラブ指導

島田朗読の会



代表 久保田 ふじ恵

30年近く前、本好きや朗読好きが集まって結成された「島田朗読の会」。好きな作品を自分たちだけで朗読するのではなく、多くの人にも

感動してもらいたいと思うようになり、より豊かに表現できるように練習を重ね、皆さんの前で発表もするようになりました。

初めの頃は、プラザおおりや学習センターなど、あちこちを借りて練習や公演をしてきました。10年くらい前から、練習、公演場所共に、ロクティを借りるようになり、今に至っております。今は、練習を毎月第2土曜日にロクティで行いながら、学校や老人会など、招かれた所で公演もしています。朗読の演目は「各地の民話」「小泉八雲の怪談」「文学作品」「会員の朗読したい作品」などです。また、戦争を風化させないよう、伝え続けなくてはという思いから、扇町への模擬原爆による空襲の被害者の証言を基に作成した「ムクの大木の下で」を、中学校などで聞いていただいています。

歩会



代表 杉本 秋江

奏でる喜び

私達歩会は琴伝流大正琴のグループです。1ヶ月に2回ロクティで練習をしています。秋には、市の文化祭、

六合の文化祭で、毎年発表しています。毎回の練習は琴の練習も楽しみですが、皆で色々な話が出るのも楽しみです。音楽にのり、手と頭を使いボケ防止にもなります、グループの仲間が心をつなげて、楽しく色々な曲を弾く事が出来る事に喜びを感じて居ます。

これからも大正琴の甘美な音色に魅せられ「継続は力なり」の言葉を信じ、青春の心意気で楽しく、仲間達と励んでいきたいと思ひます。大正琴に興味のある方、いつでもどうぞ、待っています。50周年おめでとうございます。六合のコミュニティ活動が益々発展しますよう心から願っております。

団体からの寄稿文

六合囲碁クラブ



代表 深沢 國男

当クラブは六合公民館の2階和室で 原則毎月日曜日午後1時から5時まで練習試合に励んでいます。

会費は無料です。対外試

合のような事はありません。一応 段 級を付けてはいますが正式なものではありません。皆それぞれにハンディを付けて楽しく試合を楽しんでおります。勝ち負けに こだわらず 共にひと時を楽しみ知力を磨く 人との交わりを持つことが大事と考えております。

初めて碁を習いたい方にも対応させていただきます。興味をお持ちの方は見学がてら何時でも遊びに来て下さい。小学生以上年齢性別関係なくお越しを願っております。みなさまの御参加をお待ちしております。

六合子どもチャレンジクラブ



推進委員長 佐藤 義行

地域の子どもの健全な余暇活動を支援するため、県教職員退職互助部の会員を中心にボランティア活動として平成5年度に「学校5日

制講座」として始まり、その後六合コミュニティの役員経験者や地域に住み公民館で大人のクラブを行っている多くの方々のご理解とご協力を得、名前も「六合子どもチャレンジクラブ」として、学校・家庭・公民館が一体となって推進し活動しています。毎月最後の土曜日に行っている定例講座には、六合小・六東小の3年生から6年生の子ども達が、例年百名前後参加し活動しています。

他に、特別講座として「サマーキャンプ」「映画教室」六合コミュニティ委員会の協力を得ての「ホテルの鑑賞会」「マス釣り大会」、島田工業高校生の協力を得ての「親子工作」なども実施しています。今後も、“地域の子どもは地域で健全に育てる”という思いのもと、小さな実践として続けて行きたいと思えます。

六合市民学級



令和2年度学級長 芝田 好子

市の生涯学習推進事業の一環として「自発的な意欲に基づいた学習の場を通して、豊かな人間性を培い、地域の人々との交流を深め、快適な地域づくりを推進する」ことを目的に、市内5地区で開設されている市民学級の一つとして、私たち六合市民学級は活動

しています。市民学級の歴史も、コミュニティの歴史と同じ位の歴史があり、婦人学級→女性学級→市民学級と名称を変えてきましたが、その歴史と共に何十年と在籍し、まさしく生涯学習として学んでいる学級生も沢山います。また、学習を始めたばかりの学級生もいます。

そんな60人位の仲間たちが和気あいあいと集まり、4月から翌3月まで、月1回程度の学習を自分達で計画し、色々な方法で、身近な生活・社会や地域の課題などについて楽しく学んでいます。また、その学習の成果を、六合夏祭りや文化祭、市の「生涯学習大会フェスタしまだ」等で発表しています。楽しく学んだ「楽習」を通して得た多くの事を、家族、そして地域の皆様に少しでも還元できたらと思っています。

六合高齢者学級



学級長 深沢 國男

六合高齢者学級についてご案内

ここには6つのサークルが有ります。それぞれに明るく楽しくをモットーに活動しています。

健康スポーツ部は伊藤玲子先生にご指導いただき、身体能力向上や頭の働きを良くする為の運動を無理なくそれぞれの体力に合ったやり方で様々な

工夫を取り入れてやって頂いて居ります。伊藤先生のユニークな会話が誠に楽しく愉快で笑いが絶えません。是非一度来てみて下さい。

手芸部は宮崎節子先生のご指導の元毎回一個ずつの作品を仕上げしております。教材はあらかじめ先生が用意して下さっていますので、ほぼ時間内に素晴らしい作品を仕上げて居ります。初めての方でも充分ついて行けますので是非参加をお勧めします。

生花部は鈴木久美子先生を中心にその都度季節の草花を用意して素材の使い方 姿 形の整え方を教えてください。修練によって草花の特徴を上手に引き出す工夫が培われていく事でしょう。どうぞお気軽にご参加をお願いします。**演芸部**は現在講師は不在ですが過去大石君代先生に教えられた舞踊を皆で思い出しながら復習して居ります。舞踊は原則一定の動作の繰り返しなので初めての方でも繰り返し練習することで楽しく踊れるようになります。

リズム体操部は小池幸子先生のご指導でリズムに乗り体を動かす素晴らしい運動だと思います。日頃の運動不足がこれで楽しく解消されるでしょう。お気軽に御参加をお願いします。

健康カラオケ部は現在大変残念な事ですがコロナ対策の為活動中止となっております。ワクチンの接種が進めば再開する事になります。声を出すこと力強い声を出すことは肺活量を増やし全身に酸素を効率よく送ることになり健康のために大変大事な事です。伴奏に合わせて歌うことが精神的にも情緒的にも大切なことです。上手かどうかは関係ありません。歌い込むことによって誰も歌唱力は上昇します。世に音痴と言う言葉がありますがこれは耳が訓練されて居ないので聞いた音を正しく出せないだけなのです。訓練で治ります。

コミュニティについて 絵で描いてみよう

①活動を通じて ②身近に感じる事 ③ふれあいの大切さ

小学生

優秀賞



1年 蔦山 あかり



1年 松本 かりん



1年 杉本 ゆうか



1年 久保田 とあ



1年 飯塚 れんと



1年 成岡 にこる



1年 岩本 はるか



1年 八木 りさこ



1年 加藤 さわ



1年 浜田 ゆいか

中学生

金



2年 鈴木杏梨

銀



2年 石川千聖

銀



2年 山下愛実



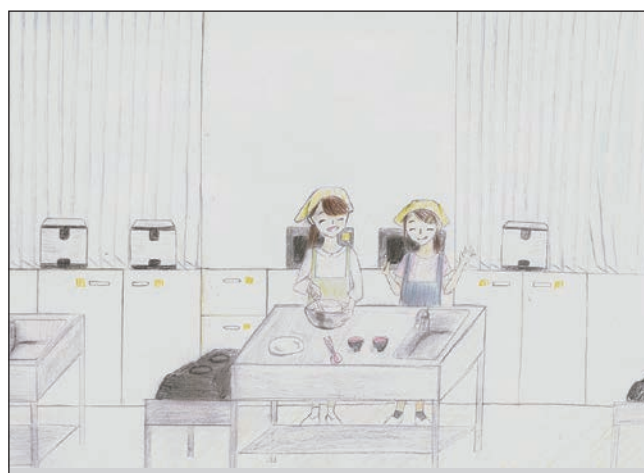
銅

2年 曾根 天花



銅

1年 今泉 洸



銅

2年 八峠 結衣



優秀賞

2年 池田 智那



優秀賞

2年 粕谷 穂乃葉



優秀賞

1年 新原 小晴



優秀賞

1年 内田 俊翔



コミュニティについて 作文してみよう

①活動を通じて ②身近に感じる事 ③ふれあいの大切さ

題名:楽しい思い出 マス釣り大会

六合小3年 河村 伊吹

わたしは、三年前にさんかしたマス釣り大会をよく覚えていかす。それは、初めてマス釣り大会にさんかしたからです。

つり大会には、お父さん、弟、わたしの三人で行きました。つり大会の数日前に、たくさんマスがつれるようにせんもんのお店に行ってエサを買いました。わたしは、つりをあまりしたことがなかったのでつり大会が、楽しみでした。

つり大会が始まったときは、ちゃんつれるか心配でした。けれど、しんぼう強くまちました。だんだんおわりが近づいてきます。

わたしたちは、けっきょくマスをつることはできませんでした。つりは楽しかったけど、マスがつれなくて少しさんねんでした。

その後、何もつれなかった人たちに、くじ引きで当たると、マスを一ぴきもらえるといううれしいことが

おこりました。わたしと弟は、すぐにくじ引きの列になりました。くじ引きの結果は、二人とも当たりだったので、二ひきもらえることになりました。とてもうれしかったです。そして、くじ引きが終わったころ、まだマスがあまっていたのでもう一回くじひきができることになりました。わたしは、はずれてしまったけど、弟が当たったので、二ひきと一ぴき、合わせて三ぴきを家に持ち帰りました。

家に帰ると、お母さんがマスをさばいて、調理してくれました。できあがったマス料理は、とてもおいしかったです。

つり大会は、わたしにとってとても良い思い出になりました。マスはつれなかったけど、つりはすごく楽しかったです。つぎは、たくさんつりたいです。地いきの方たちが開いてくれたおかげで、とても楽しいマス釣り大会になりました。

コミュニティのあした・未来・夢 六合小学校



※絵画・作文 作者の学年は令和2年度時のものです。

本部役員変遷

西暦	年号	会長		副会長		副会長		会計(本)		会計(夏)		書記	
1972年	S47年	河村 泰太	岸町	池田 國男	道悦	堤坂 三四子	東町						
1973年	S48年	河村 泰太	岸町	池田 國男	道悦	堤坂 三四子	東町						
1974年	S49年	河村 泰太	岸町	田村 敏雄	道悦	桜井 熊一	東町						
1975年	S50年	河村 泰太	岸町	田村 敏雄	道悦	桜井 熊一	東町						
1976年	S51年	山本 真一	道悦	藤岡 弥雄次	阿知	大石 英雄	東町						
1977年	S52年	山本 真一	道悦	藤岡 弥雄次	阿知	大石 英雄	東町						
1978年	S53年	小長谷 義郎	東町	鈴木 正一	阿知	園田 薫	東光						
1979年	S54年	鈴木 正一	阿知	園田 薫	東光	堤坂 鶴次	東町						
1980年	S55年	堤坂 泰次	東町	園田 薫	東光	松沢 忠吉	岸町						
1981年	S56年	堤坂 泰次	東町	園田 薫	東光	松沢 忠吉	岸町						
1982年	S57年	田村 敏雄	道悦	園田 薫	東光	一言 常夫	道悦						
1983年	S58年	田村 敏雄	道悦	桜井 克一	東光	一言 常夫	道悦						
1984年	S59年	斎藤 昇一	道悦	森下 繁	阿知	曾根 次郎	東町						
1985年	S60年	斎藤 昇一	道悦	森下 繁	阿知	曾根 次郎	東町	森 竹次郎	岸町	桜井 克一	東光	大畑 千春	岸町
1986年	S61年	森下 繁	阿知	桜井 克一	東光	安原 精二郎	東町						
1987年	S62年	森下 繁	阿知	桜井 克一	東光	安原 精二郎	東町						
1988年	S63年	櫻井 曜	東町	曾根 憲太郎	岸町	桜井 清司	東町						
1989年	H01年	櫻井 曜	東町	曾根 憲太郎	岸町	桜井 清司	東町						
1990年	H02年	曾根 憲太郎	岸町	塚本 正	道悦	久保田喜平次	道悦					鈴木 美佐子	阿知
1991年	H03年	曾根 憲太郎	岸町	塚本 正	道悦	久保田喜平次	道悦	桜井 志朗	東町	長島 六郎	阿知	八木 みどり	道悦
1992年	H04年	塚本 正	道悦	杉本 操	阿知	増田 昇	東町	大畑 雅春	岸町	大石 一貫	東町	桜井 朱美	東町
1993年	H05年	塚本 正	道悦	杉本 操	阿知	増田 昇	東町	大畑 雅春	岸町	大石 一貫	東町	白鳥 純子	岸町
1994年	H06年	杉本 操	阿知	斉藤 邦雄	東町	森 光司	道悦	前川 富士男	道悦	飯塚 光男	岸町	野口 しず子	阿知
1995年	H07年	杉本 操	阿知	斉藤 邦雄	東町	森 光司	道悦	前川 富士男	道悦	飯塚 光男	岸町	荒浪 美江	道悦
1996年	H08年	安原 精二郎	東町	五條 正行	岸町	松浦 広次	東町	山下 基雄	道悦	園田 達郎	阿知	栗原 桂子	東町
1997年	H09年	安原 精二郎	東町	五條 正行	岸町	松浦 広次	東町	山下 基雄	道悦	園田 達郎	阿知	佐藤 いさ子	岸町
1998年	H10年	池田 國男	道悦	大畑 道雄	岸町	八木 昭夫	道悦	中山 都義	阿知	伊藤 理市	東町	杉本 君子	阿知
1999年	H11年	池田 國男	道悦	大畑 道雄	岸町	八木 昭夫	道悦	中山 都義	阿知	伊藤 理市	東町	外村 ふじ江	道悦
2000年	H12年	大畑 道雄	岸町	斉藤 謙之助	東町	内山 一郎	阿知	鈴木 春雄	岸町	増田 次郎	道悦	市川 昇子	岸町
2001年	H13年	大畑 道雄	岸町	斉藤 謙之助	東町	内山 一郎	阿知	鈴木 春雄	岸町	増田 次郎	道悦	石 神 昭	岸町
2002年	H14年	内山 一郎	阿知	河村 徹	東町	大河原 東一	道悦	飯塚 稔	岸町	太田 信夫	道悦	大石 武義	阿知
2003年	H15年	内山 一郎	阿知	河村 徹	東町	大河原 東一	道悦	飯塚 稔	岸町	太田 信夫	道悦	大石 武義	阿知
2004年	H16年	河村 徹	東町	桜井 章司	東町	飯塚 亘	岸町	松澤 活人	阿知	永田 宗雄	道悦	木村 弥一	道悦
2005年	H17年	河村 徹	東町	飯塚 亘	岸町	中村 光夫	東町	松澤 活人	阿知	永田 宗雄	道悦	木村 弥一	道悦
2006年	H18年	飯塚 亘	岸町	永田 宗雄	道悦	中村 光夫	東町	太田 信夫	道悦	坂田 健司	阿知	河村 徹男	岸町
2007年	H19年	永田 宗雄	道悦	櫻井 稔	阿知	河村 徹男	岸町	八木 邦良	道悦	坂田 健司	阿知	森川 彰久	東町
2008年	H20年	櫻井 稔	阿知	曾根 龍夫	東町	森川 彰久	東町	八木 邦良	道悦	松野 昭	岸町	山本 勝美	阿知
2009年	H21年	曾根 龍夫	東町	鈴木 照男	岸町	大石 稔	東町	山本 勝美	阿知	松野 昭	岸町	飯塚 政之	道悦
2010年	H22年	鈴木 照男	岸町	前川 富士男	道悦	大石 稔	東町	服部 三郎	岸町	飯塚 政之	道悦	鈴木 政隆	阿知
西暦	年号	会長		副会長		副会長		副会長		会計		書記	
2011年	H23年	前川 富士男	道悦	鈴木 政隆	阿知	服部 三郎	岸町	鈴木 康夫	東町	吉田 正夫	道悦	川井 和実	阿知
2012年	H24年	鈴木 政隆	阿知	大久保 陽一	東町	鈴木 康夫	東町	吉田 正夫	道悦	曾根 鋭治	阿知	九島 文夫	岸町
2013年	H25年	鈴木 政隆	阿知	大久保 陽一	東町	九島 文夫	岸町	曾根 鋭治	阿知	松浦 光一	道悦	櫻井 保夫	東町
2014年	H26年	大久保 陽一	東町	河村 初男	岸町	櫻井 保夫	東町	松浦 光一	道悦	成岡 暁夫	阿知	櫻井 導夫	岸町
2015年	H27年	大久保 陽一	東町	河村 初男	岸町	櫻井 導夫	岸町	大井 直良	東町	大内 正昭	阿知	太 齋 太	道悦
2016年	H28年	河村 初男	岸町	齋藤 実	道悦	大井 直良	東町	太 齋 太	道悦	芝田 睦	阿知	河村 長治	岸町
2017年	H29年	河村 初男	岸町	齋藤 実	道悦	芝田 睦	阿知	河村 長治	岸町	杉本 実由季	東町	土屋 好弘	道悦
2018年	H30年	齋藤 実	道悦	武中 英雄	阿知	杉本 実由季	東町	土屋 好弘	道悦	成岡 安広	阿知	堤坂 季弘	岸町
2019年	R01年	齋藤 実	道悦	河村 初男	岸町	成岡 安広	阿知	堤坂 季弘	岸町	堀木 稔	東町	外村 信之	道悦
2020年	R02年	河村 初男	岸町	増田 正弘	東町	堀木 稔	東町	外村 信之	道悦	山下 豊規	岸町	増田 心平	阿知
2021年	R03年	河村 初男	岸町	増田 正弘	東町	増田 心平	阿知	山下 豊規	岸町	増田 幸雄	東町	大池 益美	道悦

五十周年記念事業委員会名簿

・五十周年記念事業準備委員会名簿(平成25年度)

委員長：内山 一郎 副委員長：曾根 龍夫
 森下 繁 安原 精二郎 池田 國男 大畑 道雄 河村 徹 飯塚 亘
 永田 宗雄 櫻井 穩 鈴木 照男 前川 富士男 塚本源之助 鳥居 秀男
 村田 光男 鈴木 政隆 大久保 陽一 九島 文夫 曾根 鋭治 松浦 光一
 櫻井 保夫 河村 初男 成岡 均

(平成26年度)

委員長：内山 一郎 副委員長：曾根 龍夫
 池田 國男 大畑 道雄 飯塚 亘 永田 宗雄 前川 富士男 塚本源之助
 村田 光男 鈴木 政隆 大久保 陽一 河村 初男 櫻井 保夫 松浦 光一
 櫻井 導夫

(平成27年度)

委員長：内山 一郎 副委員長：曾根 龍夫
 池田 國男 大畑 道雄 飯塚 亘 永田 宗雄 前川 富士男 塚本源之助
 村田 光男 鈴木 政隆 大久保 陽一 河村 初男 櫻井 導夫 大井 直良
 太 齋 太 大内 正昭

(平成28年度)

委員長：内山 一郎 副委員長：曾根 龍夫
 池田 國男 大畑 道雄 飯塚 亘 永田 宗雄 前川 富士男 塚本源之助
 村田 光男 鈴木 政隆 大久保 陽一 河村 初男 齋 藤 実 太 齋 太
 大井 直良 芝田 睦 河村 長治

(平成29年度)

委員長：内山 一郎 副委員長：曾根 龍夫
 池田 國男 大畑 道雄 河村 徹 飯塚 亘 永田 宗雄 櫻井 穩
 前川 富士男 塚本源之助 村田 光男 鈴木 政隆 大久保 陽一 河村 初男
 齋 藤 実 河村 長治 芝田 睦 土屋 好弘 杉本 実由季

(平成30年度)

委員長：内山 一郎 副委員長：曾根 龍夫
 池田 國男 大畑 道雄 河村 徹 飯塚 亘 永田 宗雄 櫻井 穩
 鈴木 政隆 大久保 陽一 河村 初男 塚本源之助 村田 光男 齋 藤 実
 武中 英雄 土屋 好弘 杉本 実由季 成岡 安広 提坂 季弘

・五十周年記念事業実行委員会名簿(平成31年度～令和2年度)(2019～2020年度)

委員長：鈴木 政隆 副委員長：大久保 陽一 河村 初男
 内山 一郎 村田 光男 塚本源之助 櫻井 勉 成岡 安広 提坂 季弘
 小林 里枝 増田 正弘 松野 昭 園田 克己 桜井 淳子 坂本 里津子
 外村 ふじ江 堀 木 稔 外村 信之

・式典部会名簿

部長：大久保 陽一 立石 昌通 大塚 健司 宮村 清子 中村 美穂子
 櫻井 保夫 松浦 光一 藤田 久 森 勝重 芝田 好子

・記念誌部会名簿

部長：河村 初男 河村 長治 大内 正昭 八木 眞理子 九島 文夫
 大石 稔 曾根 永治 吉田 正夫 杉本 実由季

あ と が き

昭和47年に六合コミュニティ委員会を設立し、このたびめでたく50周年を迎えることができました。

本当に時が経つのは早いものです。その間に世の中もめまぐるしく変わり、いろいろな出来事がありました。

六合地区におかれましては 私たちのコミュニティ活動の拠点であるコミュニティセンターが昭和49年度に建設され、その後35年の時を経て場所を移し、ロクティ（六合公民館）が建設され現在に至っております。この間の昭和61年には、この六合地区に念願の六合駅が開業し地域の活性化に大きく寄与しています。50周年の記念誌には、これまでの10周年、20周年に発行してきた2冊の記念誌を集約し、過去30年の歴史や活動を中心に掲載いたしました。

地域の皆さんが利用し活動するロクティと、六合地区を盛り上げようとするコミュニティが一体となり地域や団体の皆さんの声も掲載しております。

また、コミュニティに関連する方々には、コミュニティの活動紹介やの原稿作成や、各ページの写真や絵画の提供など、記念誌作成にご協力をいただきました。

この記念誌が、今後のコミュニティ活動の発展のために広く活用されることを期待しています。

末筆ながら、記念誌の作成にご協力をいただいた方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。

五十周年記念事業実行委員会 記念誌部会

部長：河村 初男

大石 稔	曾根 永治	河村 長治	大内 正昭
八木 真理子	九島 文夫	吉田 正夫	杉本 実由季

六合コミュニティ委員会五十周年記念事業実行委員会

発行日：令和3年9月30日

発行者：五十周年記念事業実行委員会 委員長 鈴木政隆
(事務局 六合コミュニティ委員会 会長 河村初男)

編集：五十周年記念事業実行委員会 記念誌部会

印刷・製本：株式会社 エーピーアイ

新コミュニティ旗デザイン



(考案者) 静岡県立島田工業高等学校 1年 松本紗弥さん

六合を散策していると鳥が沢山いることに気づいて、鳥をモチーフに考えていると「六合」の文字が「鳥」の形になると気づいたので描きました。

「」の部分が「六」、「」が「合」になっています。

六合の未来が鳥のように羽ばたいてくれるように願いを込めて描きました。



六合コミュニティ委員会